

# 何年度地方税滞納者壹人別帳

第三號

何町村或ハ何々町村組合役場

一金 何程 主任ノ印

何税(小科目) 何期分

何町村

某

是ハ何々(事故)ニ付滞納ノ分何月何日郡役所へ調査送付

何月何日處分中收入(又ハ處分濟收入或ハ處分濟損失)ノ旨郡役所ヨリ通知

(一廉毎ニ列記スヘシ)

何年度

地方税金收納日計簿

第四號

何町村或ハ何町村組合役場

收納日計簿						
年月日	小科目	領收金額	上納金額	上納(過)未納額	何年何月何日	何稅
全月全日	何稅	金百圓〇 <sub>㊦</sub> 以下全シ印	金百圓〇 <sub>㊦</sub>		全月全日	何稅
	日計	金貳百五拾圓 <sub>㊦</sub>	金貳百圓 <sub>㊦</sub>	金五拾圓 <sub>㊦</sub>		日計
全月何日	何稅	金五拾圓〇 <sub>㊦</sub>	金百圓〇 <sub>㊦</sub>		全月何日	何稅
全月全日	何稅	金百圓〇 <sub>㊦</sub>	金五拾圓〇 <sub>㊦</sub>		全月全日	何稅
全月全日	何稅	金百圓〇 <sub>㊦</sub>	金五拾圓〇 <sub>㊦</sub>		全月全日	何稅

日計	金貳百五拾圓 <sup>④</sup> ○	金貳百圓 <sup>④</sup> ○	金五拾圓 <sup>③</sup> ○
合計	金五百圓 <sup>⑤</sup> ○	金四百圓 <sup>⑤</sup> ○	金百圓 <sup>③</sup> ○

○三重縣訓令甲第四十號 二十三年四月二十五日

郡市役所 町村役場

青森縣東津輕郡役所本月十二日燒失ノ爲メ備置ノ書類悉ク灰燼ニ屬シタル趣ニ付同所ニ對シ照會ノ事件ニシテ未タ完結ニ至ラサルモノハ最前ノ照會書寫更ニ回送スヘシ

○三重縣訓令甲第四十一號 二十三年四月二十九日

郡役所 警察署

警察分署 監 獄

國庫費支辨ニ係ル内國旅費ノ内巡視日當ノ儀ハ費用節減ノ爲メ來ル五月一日以降普通日當ニ相當スル額ヲ支給ス

但巡視日當支給ノ當日ハ轉地一里未滿ノ里程ニ對シ車馬賃ヲ支給セサリシ處本文朔日以降之レヲ支給ス

○三重縣訓令甲第四十二號 廿三年五月六日

郡役所 警察署  
全分署 収稅部出張所

本年(三月)本縣訓令甲第二十六號諸收入金取扱手續第九條及第七條書式ノ通改正ス

第九條 第三條但書ニ依リ收入官吏現金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年大藏省令第十

一號第十八號甲書式現金出納簿及全第十四號書式收入簿ニ記入ヲナレ全令第三號書式ノ現金拂込書ヲ製シ明治廿二年大藏省令第十三號出納官吏現金取扱規則第十五條若クハ第十六條ノ期限ニ之ヲ金庫ニ送付スヘシ

(第七號書式)

現金收入檢定簿

●ハ朱

郡役所 長檢印	金庫へ納入月日	金	額	收込領收証番號	款	項	目
○	何月何日		〇五〇〇	一			
○	、、、、		一〇〇〇	二			

○三重縣訓令甲第四十二號 廿三年五月六日

郡市役所 町村役場

明治廿二年法律第三十二號ニ依リ地方税及市税町村税滞納處分ニ付取扱方左ノ通心得ヘ

第一條 國稅滞納處分法第二條其他ニ掲ケラレタル收入官吏ノ事務ハ地方税ハ郡市長市  
税ハ市參事會町村税ハ町村長ニ於テ取扱フヘシ但地方税滞納督促令狀ハ場合ニヨリ町  
村長ヲシテ之レヲ發セシムルヲ得

第二條 國稅滞納處分法第十二條ノ財産差押命令書ハ地方税ハ郡市長市税ハ市參事會町  
村税ハ町村長ヨリ之レヲ發スヘシ

第三條 市役所ニ於テ處分スル地方税滞納處分費ハ其役所ノ經濟ヘ收入スヘシ但町村長  
ヲシテ督促令狀ヲ發セシメタルトキハ其手数料ハ該町村役場ヘ收入スヘシ

第四條 國稅滞納處分法第四十條ノ買受望人ナキ物件ノ買上代金ハ地方税ハ地方税取扱  
費ヨリ支辨スヘシ但市町村税ハ雜支出ヨリ支辨スヘシ

第五條 國稅滞納處分法第十一條ノ囑托ハ市長市參事會及ヒ町村長ニ在テハ經由ヲ要セ  
ス直チニ他ノ市長市參事會及ヒ町村長ニ囑托スヘシ(廿四年訓令甲第四十號)  
ヲ以圖點ノ分刪除

第六條 各滞納税金扣除ヲ要スルトキノ順序ハ從來ノ例ニ依リ取扱フヘシ

○三重縣訓令甲第四十四號 廿三年五月六日 郡市役所 町村役場

明治十九年(十月)訓令第百五十五號勸業通信統計報告規則中調査報告方左ノ通り心得ヘ

一 調査事項中勸業委員ニ於テ調査スヘキ事項ハ町村長、勸業委員ニ於テ調査スヘキ事項ハ郡長ニ於テ調査報告スヘシ

一 津市長ニ於テハ各事項悉ク調査報告スヘシ

○三重縣訓令甲第四十五號 二十三年五月十六日 郡市役所 町村役場

地方税ヲ納ムル者ニシテ逃亡若クハ失踪シ納期限ヲ過キ納滞處分ヲ了シタル者次ノ納期ニ至リ徵税ノ手續ヲナス際尙ホ其所在ヲ知ル能ハサルトキハ廢業ノ取扱ニ準シ地方税額帳ヨリ之ヲ除去スヘシ

○三重縣訓令甲第四十六號 二十三年五月二十日 郡市役所 町村役場

社寺所有ノ地所ハ都テ明細帳ニ書載ノ處近來誤認地ノ訂正并地價ノ修正等ニテ自然變動相生シ差支不勘候條今般別紙様式ニ照シ更ニ精密取調來ル七月三十一日限リ縣廳ニ差出スヘシ

(別紙様式)

何郡(市)何町(村)大字何

縣(鄉)(村)(無格)社又ハ何宗

某 神社(寺)

一 境外所有地

田 何郡何町(村)大字何々字何

地價

畑

地價

右之通ニ有之候也

年 號 月 日

右社受持祠官(掌)  
寺住職

何 某印

同氏子信徒  
檀家 總代

何 某印

何 某印

何 某印

右調査候處相違無之候也

市(町)(村)長

何 某印

取調方心得

一取調書ハ神社寺院境外遷拜所招魂並祖靈社並寺院ノ別院境外佛堂等ノ種類ニシテ凡ソ  
公許共有ニ係ル者ハ渾テ其關係者ニ於テ取調來ル六月廿日限リ市町村長ニ差出サセ市

町村長ニ於テハ之ヲ土地臺帳ニ照シ調査ノ上相違ナキニ於テハ毎取調書ニ奥書調印シ  
町村長ハ七月十日限リ之ヲ郡長ニ差出スヘシ郡市長ハ之ヲ各種類ニ分チ各冊ニ編製シ  
表紙何郡市(神社寺院)所在地取調書ト署記シ且冊者ニ所在町村及社寺名等ヲ目錄ニ付  
シ來ル七月三十一日限リ縣廳ニ差出スヘシ

一取調書ハ來ル六月一日現在ノ地所ヲ書載セシムヘシ

一用紙ハ半紙界紙ヲ用ヒ一社寺毎ニ各紙ニ認ノサスヘシ

一民有ノ境内地ニシテ其社寺名受ニ係ルモノハ境内所有地ノ項ヲ設テ列記セシムヘシ

一去ル十二年社寺明細帳調製ノ際誤テ脱漏セシモノモ此際遺漏ナク取調其旨付箋ヲ以テ  
申出サスヘシ

一持添地ノ内田畑市街宅地郡村宅地山林原野用悪水路溜池敷堤敷溝敷墓地等凡ソ名稱ヲ  
異ニスルモノハ勿論都テ每筆ニ區別列記スヘシ

一所有地ナキ社寺ト雖モ其旨六月二十日限リ申出サセ取纏メ差出スヘシ

○三重縣訓令甲第四十七號 廿三年五月廿三日

郡市役所 警察署  
警察分署 町村役場

國庫費証書整理順序第二條へ左ノ一項ヲ追加シ第三條中「前項」ヲ「前條」トシ第八條第二項中「途中雪問又ハ川留等ニテ滞在セシキハ其地市町村長ノ証明書病氣ハ醫師ノ診斷書宿泊ハ其証據トナルヘキ書類」ノ五十字ヲ刪除ス  
仕譯書ハ當該郡長若クハ課長署長所長(土木事務所ハ首席者)ニ於テ其確實ヲ証スル爲メ之ニ認印スヘシ

○三重縣訓令甲第四十七號 廿三年五月廿七日

郡市役所 町村役場

北海道廳管下忍路郡忍路、鹽谷、桃内、蘭島、四ヶ村戸長役場本月十一日火災ニ罹リ書類悉皆燒失候旨通知有之候條同所ニ對シ照會ノ事件ニシテ未了ノモノハ此際更ニ照會スヘシ

○三重縣訓令甲第四十八號 廿三年五月廿七日

郡役所 警察署 監獄  
縣立學校 明野勸農場

本年訓令甲第十八號地方費給與現則中左ノ通改正ス

第一條中 月俸ハ毎月廿六日トアルヲ毎月末日ト改ム

第三條ヲ左ニ改ム

第一條第二條ニ掲グル事項ノ外ハ十九年(三月)勅令第六號高等官々等俸給令第二十三條乃至第二十七條及二十三年(四月)大藏省令第十號文官俸給支給細則中判任官俸給支給ノ例ニ依ル

○三重縣訓令甲第四十九號 二十三年五月三十日

警察署 分署

今般三重縣令第三十二號ヲ以テ乘合馬車組合保証金營業人力車身元保証金廢止候ニ付テハ明治二十年三重縣訓令第八百號馬車營業願取扱手續人力車營業取扱手續中及ヒ同年三重縣訓令第八百二號中抵觸ノ分ハ總テ廢止トス

○三重縣訓令甲第五十號 二十三年五月三十日

郡役所 警察署  
全分署 收稅部出張所

本年(三月)本縣訓令甲第二十六號達歲入金取扱手續第三條但書へ左ノ通追加ス  
第三條但書中「妨ケナシ」ノ下へ

又收稅部出張所ニ於テ土地臺帳曆本手數料ハ明治二十二年大藏省令第五十四號ニ依リ國  
稅滯納處分費辨納金ハ明治二十三年大藏省令第一號ニヨリ納付セシムヘシ

○三重縣訓令甲第五十二號 二十三年六月三日 郡市役所 町村役場

衆議院議員選舉人轉住ニ係ルモノ、取扱方左ノ通心得ヘシ

一衆議院議員選舉人名簿確定以前ニ選舉人其選舉區域外ニ轉住シタルトキハ前住地ノ撰  
舉長ハ名簿ヲ削除シ其旨ヲ本人并ニ本人轉住地ノ選舉長ニ通知スヘシ轉住地ノ選舉長  
前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ更ニ其人名簿ヲ記載スヘシ

一衆議院議員選舉人名簿確定以前ニ選舉人其投票區域外ニ轉住シタルトキハ選舉長ハ其  
名簿ヲ訂正シ其旨ヲ本人并ニ本人轉住地ノ投票管理ノ市町村長ニ通知スヘシ

○三重縣訓令甲第五十三號 二十三年六月十三日 郡市役所 町村役場

明治二十二年(四月)三重縣訓令第五十二號徵兵事務取扱手續第七條へ左ノ但書ヲ追加ス  
但豫備徵員ニシテ充員召集ニ應スヘキ者ノ証書ハ翌年十一月三十日迄ハ本文ニ準シ取  
扱フヘシ

○三重縣訓令甲第五十四號 二十三年六月二十日 郡市役所 町村役場

社寺所有ノ地所ニ屬スル地方稅及市町村稅ヲ不納シ滯納處分法ニ依リ其社寺持添ノ地所  
并付屬建物及什物等ヲ競賣處分ニ付シタルトキハ其旨直ニ縣廳ニ報告スヘシ

○三重縣訓令甲第五十五號 二十三年六月二十日 郡市役所 町村役場

鳥取縣會見郡米子町役場本年五月三十日火災ニ罹リ書類悉皆燒失候趣ニ付該役場ニ對シ  
照會ノ事件ニシテ完結ニ至ラサルモノハ更ニ照會スヘシ

○三重縣訓令甲第五十六號 二十三年六月二十日 監獄 警察署 分署

明治廿年(五月)三重縣訓令第五百八十七號罪科報告手續第一條中第三項ヲ削除ス

○三重縣訓令甲第五十七號 二十三年六月二十七日 郡役所 警察署 全分署



收稅部出張所 市役所  
町村役場

各所相互ノ間ニ往復スル郵便物中表書宛名所在ノ國郡町村名ヲ記入セサルモノ有之爲ニ紛誤達ヲ生シ到達遲延ヲ來スヲ往々有之趣ヲ以テ遞信省ヨリ來牒ノ次第モ有之候間爾來ハ右所在地名詳記ノ上發送取計フヘシ

○三重縣訓令甲第五十八號 二十三年六月二十七日

郡役所 警察署 監獄  
縣立學校 醫毒病院

地方經濟及備荒儲蓄金ニ關スル金員物品出納檢査規則左ノ通相定ム

但明治十五年乙第二百拾四號達ハ自今廢止ス

第一條 地方稅經濟及備荒儲蓄金ニ關スル金員物品ノ出納ハ檢査員ヲシテ檢査セシム

第二條 檢査員ハ屬官中ヨリ之ヲ命ス

第三條 檢査員ノ檢査スヘキ概目左ノ如シ

- 一 歳入歳出ノ決算
- 一 財産ノ消長及管理

一 金錢物品ノ出納及管理

一 地方稅ノ賦課徵收

第四條 檢査員ハ檢査上必要ノ書類ヲ點檢シ及主務者ノ辨明ヲ求ムルヲ得

第五條 檢査員ハ其檢査セシ一切ノ事件ニ付知事ニ對シ証明ノ責ニ任スヘシ

第六條 檢査員ハ毎年壹回以上實地檢査ヲ行フヘシ

第七條 檢査員檢査判定ノ未改正若クハ處分ヲ要スルモノハ其所長ニ對シ改正若クハ處分ヲ求ムヘシ

第八條 檢査員ノ檢査判定ニ對シ不服ナル所長ハ其事由ヲ詳具シ知事ニ開申スヘシ

第九條 檢査員ハ臨時必要アル場合ニ限り特ニ知事ノ命令ニヨリ地方稅經濟ヨリ補助ヲ與フル事業若クハ營造物ノ會計ヲ檢査スルヲアルヘシ

第十條 檢査員檢査規程ハ別ニ之ヲ定ム

○三重縣訓令甲第五十九號 二十三年六月二十七日 郡市役所 町村役場

明治十九年(十月)訓令第五百五十五號勸業通信統計報告規則第六條調查事項中「第三七陸運營業表」ノ文字及其通信統計様式中「第三七陸運營業表」様式ヲ削除ス

○三重縣訓令甲第六十號 二十三年七月三日 郡役所 警察署 同分署

市役所 町村役場

本縣廳處務細則第一部議事課管掌ノ事項中左之通改正削除ス

一第八項「証書」ノ下「檢査」ノ二字ヲ「調査」ト改ム

一第十項前文ヲ削除ス

一第十七項「郡市役所」トアルヲ「市」ノ上「郡」ノ一字ヲ削除ス

(參照)

第八項

一 地方税及備荒儲蓄金穀收支ニ係ル證書ヲ(檢査)シ之カ記帳憑ヲ作り并ニ其帳簿ヲ整理スル事

第十項

一 郡役所監獄縣立學校明野勸農場及病院費ニ關スル出納檢査ノ事

第十七項

一 (郡)市役所町村役場地方税徵收事務檢査ノ事

○三重縣訓令甲第六十一號 二十三年七月四日 郡市役所 町村役場

(伊賀國ヲ除ク)

明治二十年四月三重縣訓令第四百九十九號陸軍召集條例細務規定第二十九條ヲ削除ス (參照) 二十年四月訓令第四百九十九號

第二十九條 陸軍召集條例第四百八十八條戶長役場ニ備フル兵員名簿ハ點呼召集施行ノ

際最寄點呼所ニ於テ郡駐在官ノ點檢ヲ受クヘシ諸令狀モ亦同シ

○三重縣訓令甲第六十二號 二十三年七月八日 警察署 同分署

明治十九年九月本縣訓令第一號給與雜則第十三條左ノ通改正ス

第十三條 給與品ハ新任ノ際警察本部ニ於テ給與シ件與品ハ警察署ニ於テ貸與ス示後被服ハ支給期節ニ至リ交付シ器具ハ用ニ堪ヘサルヲ待テ換與ス  
 但新任巡查ニ給スル被服ノ内冬期夏期帽日履ハ着用期節ニ至リ交付スルモノトス  
 ○三重縣訓令甲第六十三號 二十三年七月八日 郡役所  
 備荒儲蓄金取扱規則第十二條貸下金一時上納利引率表左ノ通相定ム

五分利引拾圓率

年	數	全	年	率	半	年	率
初	年			〇四七六			〇二四四
二	年			〇七〇三			〇四七六
三	年			〇九二三			〇七〇一
四	年			一一三五			〇九一九
五	年			一三四一			一一三〇

六	年			一五四一			一三三四
七	年			一七三四			一五三二
八	年			一九二二			一七二四
九	年			二一〇二			一九一〇
十	年			二二七八			二〇九〇

○三重縣訓令甲第六十四號 二十三年七月八日 郡市役所 町村役場  
 陸軍下士以下休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行途中發病若クハ船待川留置支等ニテ休暇日數ヲ超過スル旨ヲ以テ証明方申出ツル時ハ市町村長ニ於テ証明書ヲ交付スヘシ  
 但明治二十一年本縣訓令第百三十二號ヲ廢止ス

○三重縣訓令甲第六十五號 二十三年七月十一日 郡役所 警察署 分署  
 監獄 市役所 町村役場  
 虎列刺病豫防消毒心得別紙ノ通リ相定ム(廿三年訓令甲第百廿一號)ヲ以廢止ニ付別紙略ス  
 ○三重縣訓令甲第六十六號 二十三年七月十一日 郡役所 警察署 分署

監 獄 市役所 町村役場

生石灰ハ近時諸多ノ經驗ニ依リコレヲ病毒撲滅スルニ十分ノ効力ヲ有シ該吐瀉物及吐瀉物ヲ混入シタル糞便等ノ消毒藥タルコトヲ認ムルニ至レリ依テ本年七月十一日訓令甲第六十五號コレヲ病豫防消毒心得第七章第八章ノ消毒藥ニハ左ノ方法ニ依テ重ニ石灰乳使用スヘシ (廿三年訓令甲第百廿一號ヲ以廢止ニ付左再略ス)

○三重縣訓令甲第六十七號 二十三年七月二十九日

郡 役 所

所得稅調查員會諸費請求順序左ノ通之ヲ定ム

但明治二十年(八月)訓令第九百七十一號ハ廢止ス

所得稅調查委員會費請求順序

第一條 所得稅調查委員手當及該委員會費ハ本順序ニ據リ之ヲ請求スヘシ

第二條 前條ノ費額ハ郡長ニ於テ別紙様式ニ據リ豫算書ヲ調製シ委員會開會二十日前知事ノ承認ヲ請フヘシ

第三條 郡長ハ豫算承認額内ヲ以テ計畫處辨シ仕拂金請求仕譯書ハ國庫費証書整理順序ニ據リ之ヲ調製セシムヘシ

第四條 正當積生ノ請求金仕譯書ハ郡長ニ於テ取纏メ之ヲ調査シ其確實ヲ証スル爲メ相當ノ場所ヘ認印ヲナシ別ニ仕拂要求書ヲ添テ差出スヘシ

物件購求代金請求仕譯書ニハ前項ノ外購求物件仕拂證明書ヲ添付スヘシ

第五條 仕拂金請求仕譯書ハ委員會閉會後七日以内ニ取纏メ仕拂要求ノ手續ヲナスヘシ

第六條 郵便切手ハ使用概算高ヲ以テ請求シ委員會閉會後七日以内ニ精算書ヲ調製差出スヘシ

但精算書ヘハ發送ノ度數金額發遣地等ヲ詳記シタル明細書ヲ添付シ仕拂ノ証明ヲナスヘシ

第一號

所得稅調查委員會諸費豫算調

一金何程	調査委員手當
内	
金何程	同上旅費
但別表調ノ通	
金何程	同上
但同上	
金何程	雜給傭人料
但同上	
金何程	應費
但同上	
別表	所得稅調査委員手當

開會日數	手當金日額	金額	委員氏名
計			

調査委員旅費

用途	延里數	車馬賃	日數	日常額	金額	委員氏名
		一里金額				
計						

(納稅者尋問等ニテ氏名ノ豫メ知リ難キモノハ何郡何村出張幾名ト記載スヘシ)

雜給傭人料

使用ノ目的	日數又ハ度數	一日又ハ一里金額	金額
計			

品目		數量	一個當金	金額
計				

(本表ハ目毎ニ合計シ節毎ニ小計スヘシ)

右本年度所得稅調查委員會來ル何月中開會執行致度候條該費額豫算前書ノ通御承認相成度候也

年月日

郡

長

知事宛

第二號

所得稅調查委員會諸費要求書

一金何程

内

金何程

所得稅調查委員手當

但誰外何名別紙仕譯書何葉ノ通

金何程

同上旅費

但誰外何名別紙仕譯書何葉ノ通

(以下要求金額ヲ目限リ列記シ前記ノ例ニ依リ但書ヲ付スヘシ)

右本年度所得稅調查委員會ニ屬スル諸費前記ノ通仕拂相成度候也

年月日

郡

長

知事宛

第三號

購求物件仕拂証明書

品目	数量	代	金	正當債主氏名
計				

本表八目毎ニ計ヲナシ節毎ニ小計ヲナスヘシ

右ノ通り本年度開會所得稅調查委員會ニ於テ必要物件購求ノ上仕拂候ニ相違無之候也

年 月 日

郡

長

知 事 宛

第四號

郵便切手精算書

切手種類	受	拂	残

右年度所得稅調查委員會ニ於テ郵便切手受拂相違無之ニ付殘印紙返納候也

年 月 日

郡

長

知 事 宛

○三重縣訓令甲第六十八號 二十三年七月二十九日

郡市役所 町村役場

埼玉縣下秩父郡名栗村役場本月十四日燒失ニ付該役場ニ對シ照會中ノ事件ニシテ應答未

濟ノ者ハ來ル八月三十一日限リ更ニ照會スヘシ

○三重縣訓令甲第六十九號 二十三年八月五日

郡役所、警察署、分署、監獄、市役所、  
町村役場

今般改正傳染病豫防心得書ノ内總則及コレラ病ノ部并ニ傳染病消毒心得別冊ノ通調查結

了ノ旨ヲ以テ内務省ヨリ通牒有之候ニ付該心得ニ準據シ豫防消毒充分行届候様取計フヘ

シ(廿三年訓令甲第百廿一號ヲ以テ全文廢止ニ付別紙畧ス)

○三重縣訓令甲第七十號 二十三年八月二十六日

郡市役所 町村役場

市長町村長並助役忌服私事旅行等ノ爲公務ニ從事スルヲ得サルハ左ノ規定ニ從フヘシ  
一市長町村長助役忌服ヲ受ケタルハ市長及市ノ助役ハ知事ニ町村長及町村ノ助役ハ郡長ニ届出除服ノ達ヲ受ケ公務ニ從事スヘシ

一市長町村長助役私事旅行ヲナサントスルハ市長及市ノ助役ハ知事ニ町村長及町村ノ助役ハ郡長ニ申立其認可ヲ受クヘシ

○三重縣訓令甲第七十一號 二十三年八月二十八日

市役所 町村役場

今般醫師ニ於テ吐瀉ノ二症ヲ兼テ備ヘタル病者ヲ診斷セントキハ直ニ届出ヲシムルニ付テハ其届出ヲ受ケタル市町村長ハ診察セン醫師ニ協議シ疑似ニ涉ル患者ハ類似コレラ病ノ名ヲ付セサルモ其醫師ノ見込ニ從ヒ本年八月五日訓令甲第六十九號ニヨリ相當ノ消毒法ヲ實施セシムヘシ

但市町村長ニ於テ醫師ノ届ヲ受ケタルトキハ直ニ最寄リ警察署若クハ分署若クハ駐在

所ニ通報シ且其届書ハ(消毒ヲ行フタル分ハ其旨ヲ届書ニ簡單ニ記入シ檢印ヲ捺シ)縣廳ニ差出スヘシ(町村ハ郡役所)

○三重縣訓令甲第七十二號 二十三年八月二十八日

木ノ本警察署 尾鷲警察署 宇治山田警察署 關警察署  
上野警察署 鳥羽警察署 四日市警察署 津警察署

大坂府下コレラ病ノ勢ヒ猛劇ニシテ且ツ著シク傳播ノ兆ヲ顯シ候ニ付豫防注意之義務大臣ヨリ訓令ノ次第モ有之候條其所轄内左記ノ箇所へ巡查ヲ派出シ左記ノ順序ニヨリ注意方取計フヘシ(廿三年十月訓令甲第八十八號ヲ以全文廢止ニ付左書ヲ略ス)

○三重縣訓令甲第七十三號 二十三年八月二十八日

南牟婁郡役所 北牟婁郡役所 度會郡役所 鈴鹿郡役所  
阿拜山田郡役所 若志英虞郡役所 三重朝明郡役所 津市役所

大坂府下ヨリ來ル船客旅客等ニ對シ左ノ箇所ニ於テ巡查ヲシテ注意セン候ニ付所屬郡市役所ニ於テハ臨時ノ用ニ充ツヘキ醫師及避病院ノ設ケナキ場所ニ在テハ病者ヲ入ルヘキ便宜ノ場所及消毒藥海路ニ在テハ巡查ノ往復スヘキ小舟等豫メ準備シ置クヘシ  
但巡查ヨリ患者若クハ疑ハシキモノアル通報ヲ受クレハ直ニ主務吏員ヲ派遣シ相當ノ





四年度歳入豫算調理上必要ノ趣ニ付左記ノ七項來ル九月十八日迄ニ取調差出スヘシ

一商店ノ數及其區別

二十二年十二月三十一日現在

一商業者未成年者ノ數

同上

一商業者婚姻ノ數

同上

一商業者後見人ノ數

同上

一合名會社ノ數(資本千圓以下ノ分)

同上

一合資會社ノ數(同上)

同上

一株式會社ノ數(同上)

同上

○三重縣訓令甲第七十九號 二十三年九月十二日

郡市役所 町村役場

群馬縣邑樂郡赤羽村役場客月二十七日火災ニ罹リ書類悉皆燒失ノ旨同縣ヨリ通知ニ付該役場ニ對シ照會中ノ事件ニシテ應答未済ノモノハ更ニ照會スヘシ

○三重縣訓令甲第八十號 二十三年九月十九日

郡役所 警察署 監獄  
縣立學校病院 明野勸農場

本年(三月)訓令甲第十八號地方費給與規則第一條中(每月末日)トアルヲ(毎月二十五日)ト改ム

○三重縣訓令甲第八十一號 二十三年九月十九日

郡市役所

今般内務報告例更定相成候ニ就テハ左記ノ事項ハ自今其役所ニ於テ取調時日內當廳へ報告スヘシ

例目

日報

天變地異ニ依リ人蓄ノ死傷家屋田園ノ破壊流失其他ノ異常

一百戸以上並重要ノ關係アル家屋ノ火災及火災ノ爲メ死人アリタル片

一町村制第百十六條及第百十八條ノ處分

一町村制第四條第二項ノ處分及第五條ノ裁決ニヨリ境界變更

年報

一市町村基本財産調 (第一表)

縣廳へ到達期限  
每五年目  
八月三十日

一貴族院多額納稅者議員互選調 (第二表)

撰舉ヲ行フ年ノ  
六月十五日

一市町村吏員調 (第三表)

二月末月

一衆議院議員選舉調 (第四表)

八月三十一日

一縣會議員選舉被選舉調 (第五表)

一月三十一日

一土木費總計表 (第六表) 十六年八月本縣  
乙第四百二十二號

七月三十一日

一水害表 (第七表) 十九年十一月本縣  
訓令第百九十三號

二月末日

一町村費收支取調 十八年九月內務省  
甲第二十九號達

會計年度後五月以內  
(廿三年十月訓令甲第  
八十五號ヲ以テ追加)

第一表

年報

市町村基本財産調		(明治何年度末現在)		郡市役所名	
郡市名	町村數	土地價格	建物價格	穀物價格	諸公債証諸株券現金其他諸品價格合計
何郡					
何郡					
何市	.....				

納	税	額	住所身分職業	互撰權ヲ有セサルモノ、氏名
<p>第二表 年報</p> <p>貴族院多額納税者議員互撰調(明治二十三年六月一日現在) 郡市役所名</p> <p>一町村數ハ基本財産ヲ所有スル町村ノヨリ記載スヘシ</p> <p>一土地建物穀物公債証書株券共其種類ヲ細別スルニ及ハス各價格ノ總計ヲ見積リ概算ヲ以テ記入スヘシ但山林原野ノ土石木等ノ價格ハ土地ニ合算スヘシ</p> <p>一本表ハ明治二十三年度末ヲ第一回トシ爾後五年目毎ニ年度末ノ現數ヲ調査スルモノトス</p>				
總計				

納	税	額	住所身分職業	互撰權ヲ有セサルモノ、氏名
<p>第三表 年報</p> <p>一本表ハ撰擧ヲ行フ年ニ報告スルモノトス</p> <p>一互撰權ヲ有スルモノ、最少税額以上ヲ納ムルモノヲ記入スヘシ</p>				

職名	市町村吏員調 (明治何年十二月三十一日現在) 郡市役所名
常設委員	
區區長代理者	
區區長記者	
附屬員	
合計	

一 町村長及助役ニシテ區長等ヲ兼スルモノハ其人員ヲ朱書スヘシ  
 一 町村制第百十六條ニ依リタル町村行政全部ノ組合吏員ハ各其欄内ニ別記シメテ付スヘシ

第四表 年報 但一部ノ事務ノ爲メ設ケタル組合ノ吏員ハ掲載スルヲ要セス

衆議院議員撰舉調 (明治何年六月十五日現在) 郡市役所名	族籍	何郡 華族 士族 平民 計	又ハ	何市 華族 士族 平民 計
	直接國稅十五圓以上ヲ納ムル者			
	撰舉權ヲ有スル者			





支川名	何々	橋梁	毀流	損失
派川名	何々	川除	破損	損失
海岸水害月日	何月何日	樋類	毀流	損失
海岸名	何々	用惡水路	破損	損失
郡區名	何郡區	波止場	毀流	損失
町數	何箇町			
村數	何箇村			

一 堤要ノ欄ニハ河川ノ水源ニ流末及水害ノ景況ヲ畧記スヘシ  
 一 河川ノ水害ハ各流域毎ニ一表ヲ製シ海岸ノ水害海潮ノ害ヲ被リハ一海岸ヲ通シ一表ヲ製スヘシ

一金員ハ圓延長ハ間位ニ止ムヘシ

○三重縣訓令甲第八十二號 二十三年九月三十日 郡市役所

明治十七年(二月)乙第四十四號達實與上申書載條例第六項左ノ通改正ス

一 書載方ハ金額ノ順序ヲ逐ヒ五百圓以上ト百圓未満拾圓以上拾圓未満壹圓以上并壹圓未満毎ニ合計ヲナン結尾ヘ總計ヲ記スヘシ

(參照) 明治十七年乙第四十四號書載例第六項

一 書載方ハ金額ノ順序ニ逐ヒ五百圓以上五百圓未満百圓以上百圓未満拾圓以上并拾圓未満毎ニ合計ヲナン結尾ヘ總計ヲ記スヘシ

○三重縣訓令甲第八十三號 二十三年十月七日 郡市役所 町村役場

明治二十年(十二月)本縣訓令第千五百六十二號衛生ニ關スル諸表様式中左ノ通改正ス

一 種痘人員中再種、三種ノ滿一年以内、一年以上滿二年ノ欄及疾病事故ニテ種痘セサルモノ、十五年以上ノ欄ニ斜線ヲ布ク



一同表備考ヲ左ノ如ク改ム

備考

一種痘規則第三條ニ據リ接種セシ者ハ表中ニ算入セス本表欄外ニ其人員及感否ノ別ヲ

附記スルモノトス

一一年以上満二年ノ欄ニハ一年一月以上満二年マテ一年以上満五年ノ欄ニハ二年一月以上満五年マテノ者ヲ記入シ以下諸欄之ニ準ス

一初種ノ欄内ヘハ小兒出生後満一年以内ニ種痘セシモノハ善感若クハ疾病事故ニテ種痘セサルモノハ數ヲ記入スヘシ其不善感ナルモノハ種痘規則第一條後段ニ依リテ再種痘ヲ行ヘル後善感ナレハ善感不善感ナレハ不善感トシテ本欄内ヘ記入スヘシ又疾病事故ノ止ミ種痘セシモノハ數ハ例ヘハ年齢六年ニ至リ疾病事故止ミタリトスル片ハ年齢ノ満一年以内ニアラサルモ種痘規則第一條ノ手續ヲ履ミ初種ノ五年以上満十年ノ欄内ヘ記入スヘシ再種、三種ノ欄モ疾病事故ハ此例ニ同シ

○三重縣訓令甲第八十四號 二十三年十月七日

郡市役所 町村役場

島根縣那賀郡川波村役場客月十三日火災ニ罹リ書類悉皆焼失ノ趣ニ付該役場ニ對シ照會中ノ件ニシテ應答未済ノ分ハ更ニ照會スヘシ

○三重縣訓令甲第八十五號 二十三年十月十四日

郡市役所 町村役場

本年勅令第九十六號ヲ以テ徵發事務條例中改正セラレシニ付左ノ條項ニ依リ諸表ヲ調製シ町村長ハ翌年二月十日限リ郡長ヘ差出シ郡市長ハ同月限リ當廳ヘ進達スヘシ

但明治十九年本縣訓令第六十九號同二十年同訓令第二十八號同二十一年同訓令第六號ヲ廢止ス

- 一 附錄第三號ノ一表式中日本形船舶ノ欄ヘ汽船ニ非ラサル西洋形船舶ヲモ記載スヘシ
- 其二十噸以上ノモノハ五十石以上ノ區畫ニ二十噸未滿ト解漁小廻ノ區畫ニ朱背スルモノトス(廿三年十月訓令甲第八十七號ヲ以追加)
- 一 附錄第三號ノ一二三ノ離形ニ準シ三年毎ニ徵發物件表ヲ調製スヘシ

但本年十二月調ヲ以テ第一回トシ二十五年十二月調ヲ以テ第二回トシ自後之レニ準スルモノトス

一 附録第三號ノ一表ハ二通ヲ縣廳ニ差出スヘシ

一 附録第四號ノ一二三ノ離形ニ準シ西洋形船舶器械製造修履場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上設置鐵工場表ヲ調製スヘシ

但毎年十二月調トス

一 附録第五號ノ一二ノ離形ニ準シ汽解表ヲ調製スヘシ

但毎年十二月三十一日現在部内ニ在籍セル汽船ニ基キ製表スルモノトス

一 登簿噸數百噸以上ノ汽船ヲ新造若クハ買入レタル者アル時ハ(部内ニ船籍アルモノニ限ル)附録第五號ノ三ノ離形ニ準シ汽船表ヲ製シ其時々差出スヘシ

但持主變換船名改稱等ノ異動ハ其時々届出ツヘシ

○汽船表中免狀番號ノ欄内ニハ必ス遞信省ノ登簿ニ係ル船舶ノミヲ記入シ不登簿ハ

渾テ斜線ヲ施スヘシ

○蒸留水トハ全ク飲料用ノ爲メ特ニ設置セル蒸留機械ヨリ成ルモノニシテ尋常汽船ノ覆水ヲ云フニアラス故ニ該機械ノ備ヘナキ者ハ斜線ヲ施スヘシ

一 附録第七號平均物價表ハ左記市街ノ前三ヶ年間ノ平均代價ヲ取調ヘ毎年之ヲ製表スヘシ

桑名町 津 市 宇治山田町 上野町 鳥羽町 尾鷲町

(参照)

三重縣訓令第六十九號 明治十九年十月五日

本年閣令第十一號ヲ以徵發事務條例中改正相成候ニ付テハ附録第三號ノ二徵發物件表及同第五號ノ一船舶表同第五號ノ二汽船表同第七號平均物價表ハ左ノ調製手續ニ據リ各戸長ハ翌年二月十日限郡長ヘ差出シ郡長ハ一郡部内取纏ノ製表同月中當廳ヘ差出スヘシ又部内ニ於テ新タニ構造シ若クハ買入タル汽船アル片ハ附録第五號ノ三

ノ雛形ニ據リ漁船表ヲ製シ其時々差出スヘシ

但明治十六年四月乙第五十八號同十七年二月乙第八號達ハ廢止ス

(左記ノ調製手續畧之)

三重縣訓令第二十八號 二十年一月十五日

明治十九年十一月閣令第二十九號ヲ以同十五年十二月第二十六號布達徵發事務條例  
第廿五號ヲ改正シ同條例附錄第四號雛形ヲ増加セラレ候ニ付テハ右増加ニ係ル西洋  
形船舶器械製造修履場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表進達期限  
ハ同十九年十月本縣訓令第六十九號ノ通心得ヘシ

三重縣訓令第六號 二十一年一月二十四日

明治十九年十月本縣訓令第六十九號ニ依リ差出スヘキ附錄第五號ノ三漁船表調製手  
續左ノ通心得ヘシ  
但持主變換船名改稱等ノ異動アルキハ其時々届出シムヘシ (調製手續畧)

○三重縣訓令甲第八十六號 廿三年十月廿四日 郡役所 警察署同分署 収稅部出張所  
本年(三月)本縣訓令甲第二十六號諸收入金取扱手續第十三號左ノ通改正ス

第十三條 前條納人告知書ニハ明治廿三年(十月)大藏省訓令第三百三十四號ニ依リ納人所  
在地ノ支金庫ヘ爲換納ヲナシ得ヘキ旨付箋送付セシムルニ付納人ヲシテ現金ヲ其支金  
庫ヘ爲換納ヲナサシメ該爲換納金領收證ト納入告知書ト共ニ之ヲ差出サセ監査簿ヘ納  
入濟ノ記入ヲナシ直ニ津本金庫ヘ回送スヘシ津本金庫ニ於テ本人ノ請求ニ依リ別符附  
ノ領收證ヲ直ニ當廳ヘ差出スルハ收入官吏檢印切斷ノ上其領收證ヲ再ヒ送付セシムヘ  
キニ付之ヲ納人ニ下付スヘシ但本條爲換納ヲナスハ納人告知書ニ指定ノ期日ニ津本金  
庫ヘ回送シ得ヘキ日限ヲ見計ヒ爲換納ヲナサシムヘシ

○三重縣訓令甲第八十七號 廿三年十月廿四日 郡市役所 町村役場

本年當縣訓令甲第八十五號第一項ノ次ヘ左ノ一項ヲ追加ス

一 附錄第三號ノ一表式中日本形船舶ノ欄ヘ漁船ニ非ラサル西洋船舶ヲモ記載スヘシ其

二十噸以上ノモノハ五十石以上ノ區畫ニ二十噸未満ハ靜漁小廻ノ區畫ニ朱書スルモノトス

○三重縣訓令甲第八十八號 二十三年十月二十八日

- |         |         |
|---------|---------|
| 三重朝明郡役所 | 鈴鹿郡役所   |
| 度會郡役所   | 阿拜山田郡役所 |
| 答志英虞郡役所 | 北牟婁郡役所  |
| 南牟婁郡役所  | 四日市警察署  |
| 關警察署    | 津警察署    |
| 宇治山田警察署 | 上野警察署   |
| 鳥羽警察署   | 尾鷲警察署   |
| 木ノ本警察署  | 津市役所    |

本年(八月二十八日)甲第七十二號甲第七十三號訓令ハ廢止ス

○三重縣訓令甲第八十九號 二十三年十月廿八日

郡役所

本年(九月)訓令甲第八十一號報告例目年報ノ部ニ左ノ一項ヲ追加ス

一 町村費收支取調 十八年九月内務省 會計年度後五ヶ月以内 甲第二十九號達

○三重縣訓令甲第九十號 二十三年十月三十一日 伊勢志摩全國南北牟婁郡

郡市役所 町村役場

今般陸軍兵籍規則改正相成候ニ付テハ現役者ノ父母祖父母及兄弟姉妹ノ同戶籍中ニ現在スル者ノ名及生年月日入用ノ旨第三師團長ヨリ照會有之候條市町村長ニ於テ來ル十二月入營スヘキ新兵ノ戶籍ヲ謄寫シ町村長ハ十一月十五日迄ニ郡長ヘ差出シ郡市長ハ同月二十日迄ニ津大隊區司令官ヘ送付スヘシ

○三重縣訓令甲第九十一號 二十三年十一月七日

京都府與謝郡市塲村役塲客月廿二日火災ニ罹リ書類悉皆燒失候旨通知有之候間同役塲ニ對シ照會ノ事件ニシテ未タ結了セサルモノハ更ニ照會スヘシ

○三重縣訓令甲第九十二號 二十三年十一月七日  
郡役所 警察署 監獄署  
縣立學校病院 明野勸農場  
本年(三月)訓令甲第十九號地方稅物品會計規則第二十條物品臺帳ニ限リ錯雜ノ虞ナキニ於テハ連年繼續セシムルヲ得

○三重縣訓令甲第九十三號 二十三年十一月十一日 郡市役所  
鳥獸獵及保護銃免許取扱手續左ノ通り相定ム

鳥獸獵及保護銃免許取扱手續

第一條 鳥獸獵免狀及空發保護銃免狀ノ下付方ヲ出願スルキハ郡市長ニ於テ實況取札ノ上許可シ免狀ヲ交付スヘシ

但免狀ヲ毀失セシ者再度下付ヲ出願スルキモ亦本文ニ全シ

第二條 除害ノ爲メ實彈發射免狀ノ下付ヲ出願スル者アルキハ郡市長ハ實況ニ徴シ願狀適實ナルヤ否ヤノ意見書ヲ付シテ知事ニ進達スヘシ

第三條 鳥獸獵免狀及空發保護銃免狀下付臺帳ヲ製シ置キ免狀ノ番號、身分年齡住所姓

名、免狀ノ下付及返納年月日其他必要トスル事項ヲ詳細ニ登記スヘシ

鳥獸獵免狀ハ第一號、空發保護銃免狀ハ第二號雛形ノ如ク記入シ前項ノ臺帳ト契印ノ上交付スヘシ

第四條 免狀ヲ亡失セシ旨届出ツルキハ其免狀ノ番號、身分住所姓名、亡失ノ年月日ヲ詳記シ知事ニ報告スヘシ

第五條 鳥獸獵免狀ハ毎年七月十五日空發保護銃免狀ハ毎年十二月十五日ヲ限リ一期間ノ豫算數ヲ調査シ其下付方ヲ知事ニ申請スヘシ

第六條 鳥獸獵及空發保護銃免狀還納ノ豫算及下付殘餘ノ分ハ獵期後一ヶ月内ニ縣廳ニ返納スヘシ

第七條 第三號雛形ニ倣ヒ鳥獸獵免狀總計表ヲ調製シ毎年七月限リ知事ニ進達スヘシ

第八條 鳥獸獵免狀ヲ交付セシキハ其都度間稅分署へ通知スヘシ

第一號雛形

(裏面ハ鳥獸獵規則記載アリ)

▲印ハ朱

▲郡(市)  
役所印

鳥獸銃獵免狀

番號	遊獵第何號
本籍	何府縣華士族平民
姓名	何 某
年齡	明治何年何月何十年何ヶ月
住居	何國何郡(市)何町村大字何々何番屋敷 <small>或ハ何某方寄留</small>
期限	自明治何年何月何日 至明治何年何月何日

▲  
鳥獸獵  
農商務省  
免許証

▲  
明治 年 月 日

三重縣廳

▲  
印

第二號

雛形(裏面ニ明治何年何月何日ト記載アリ)

第何號

免許期限 明治何年何月何日ヨリ  
同 年何月何日迄

▲郡(市)  
役所印 契  
發空 保護銃免狀

何郡(市)何町村大字何々何番屋敷

何 某

第三號雛形

何郡(市)明何年鳥獸免狀總計表

種別	凡積免狀受取高	免狀	銃獵稅	身分				免狀再渡手數料	縣廳返納免狀	銃獵禁止地名
				華士族	平民	和銃	洋銃			
職	何千何百枚	何千何百枚	何百何拾何圓	何人	何人	何百挺	何百挺	何圓何拾何錢	何百何拾枚	
遊	何拾枚	何拾枚	何百何拾圓	皇族何人	華族何人	和銃	洋銃	何拾何錢	何枚	
獵	何千何百枚	何千何百枚	何百何拾圓	士族何人	平民何人	何拾挺	何拾挺	何圓何拾何錢	何百何拾枚	
總計	何千何百枚	何千何百枚	何百何拾何圓	何千何百人		何百何拾挺	何拾枚	何圓何拾何錢	何百何拾枚	

○三重縣訓令甲第九十四號 二十三年十一月十四日 郡役所、警察署、全分署、直稅分署  
 本年(三月)本縣訓令甲第貳拾六號諸收入金取扱手續第十二條中郡役所ニ於テハノ下(別  
 紙第五號書式)徴收監査簿ヲ設置シ式ノ如ク記帳ノ上)ノ二十四字ヲ(之ヲ)ノ二字ニ改  
 ヲ第十三條中 二十三年十月訓令甲 第八十六號改正ノ 之ヲ差出サセノ下(監査簿へ納入濟ノ記入ヲナシ)ノ十  
 三字ヲ刪除ス

但後日調査ノ爲メ納入告知書番號年月日及納入名等適宜帳簿ヲ設ケ經由ノ都度書留置  
 クヘシ

○三重縣訓令甲第九十五號 二十三年十一月十八日 警察署

明治十九年(十月)訓令甲第九十號警察署處務細則中左ノ通り更正ス

- 第二章事務條項第一條第二項更正
- 一 巡查ノ休暇・看護飯署、轉地療養慕參願ヲ認許スルヲ
- 第二條中追加及刪除









一本表ハ本籍人ノ生年ヲ調査スルモノニシテ其調査ノ年ヲ首トシ以上年次ヲ逐ヒ明治慶應元治文久萬延安政嘉永弘化天保文政文化亨和寛政天明安永ニ溯リ年號何年生ト列記シ其生レタル年ニ從ヒ記入スベシ例ハ明治二十三年生レノ下欄ニハ同年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ出生シタル者ヲ記入スルカ如シ但戸籍編製以前逃亡失踪シ其生年詳ナラサル者アル片ハ生年不詳ノ項ニ記入スヘシ

死	生	類	別	男	女	合計	第五	本籍人出產死亡婚姻表	明治何年	市町村名
							產	私	公	計

表	屬	附	類	別	男	女	合計	結婚數	離婚數	年末配偶數
								明治二十二年生	同二十一年生	同二十年生

- 一本表ハ一ケ年ノ總數ヲ記入スルノ趣意ナリ
- 一生産者ノ數ヲ擧クルニハ例ハ明治二十三年ニ在テハ先ツ該年ノ登記目錄ニ就キ一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ出產シタル數ヲ算出シ之ヲ第一數トシ次ニ明治二十四年ノ登記目錄ニ就キ二十三年十二月下旬ニ出產シテ其届出期限二十四年一月上旬ニ係リテ届出タル數ヲ算出シ之ヲ第二數トシ（此第二數ハ明治二十四年ノ出產表ニハ記入スヘカラス）此第一第二ノ數ヲ合シテ記入スヘシ
- 一死亡者ノ數ヲ擧クルハ生産者ノ數ヲ擧クル方法ト同シ
- 一出産届出以前ニ死亡シタル者ノ數ハ前項ノ方法ニ據リ出產死亡ノ兩項ニ各記入スルハ勿論トス
- 一結婚離婚ノ數ハ本年中結婚離婚ヲ届出タル件數即組數ヲ記シ且結婚ハ婦又ハ婿ヲ迎ヘタル方離婚ハ之ヲ出シタル方ニ於テ記入スヘシ
- 一年末配偶ノ欄ニハ本年十二月卅一日調ノ戸籍ニ現ニ登記シアル夫婦ノ組數ヲ記入スヘシ

- 一附屬表生産届洩者ハ例ハ明治二十三年ノ調査ニ在テハ該年ノ登記目錄ニ就キ二十二年以前ニ出產シテ二十三年中ニ届出タル者ノ數ヲ二十二年生ヨリ十八年以前生迄ノ五項ニ別テ記スヘシ爾後此例ニ依リ毎年繰上クルモノトス
- 一同表棄兒ハ本年中ニ届出タル者ニ就キ本年中ノ出生ト推測シタル者ハ本年生ノ項ニ前年出生ト推測シタル者ハ前年以前生ノ項ニ區別シテ記入スヘシ
- 一同表死亡届洩者ハ生産届洩者ヲ擧クル如ク五項ニ區別スルニ及ハス總テ一項ニ合記スヘシ
- 一同表本籍不詳者ハ本年中行旅死亡人取扱規則ニ依リ取扱ヒタル數ヲ記入スヘシ但調査ノ際揭示中ニ係ル者ハ之ヲ除キ本籍不詳ト決シタル年ノ數ニ記入スヘシ
- 一同表死産ハ妊娠後四ヶ月以上ニシテ死胎分娩シタル者ヲ云フ其數ハ素ヨリ登記目錄ニ記載セサルモノナルヲ以テ八民各自ノ届書ニ據リ死産ノ月日ニ拘ハラス本年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ届出タル數ヲ記入スヘシ但死亡數ハ算入スヘカラス

第六 就除籍送入籍及失踪表

明治何年

市町村名

類 別	明治何年		合 計
	男	女	
無籍者就籍			
外國ヨリ入籍者			
失踪者除籍			
重籍者除籍			
外國へ送籍者			
他府縣へ送籍			
府縣内送籍			
他府縣ヨリ入籍			
府縣内入籍			
失踪			

一無籍者就籍ノ項ニハ明治五年戸籍編製ノ時ヨリ無籍ニシテ本年ニ至リ始テ籍ニ就キタルモノヲ記入スヘシ

一外國ヨリ入籍者ノ項ニハ婚姻ニ依リ外國人ノ入籍シタル者ヲ記入スヘシ

一失踪者除籍ノ項ニハ本年中滿八十歳ニ至リ除籍シタル者及八十歳以上ニシテ失踪シ本年中滿三十六箇月ニ至リ除籍シタル者ヲ記入スヘシ

一重籍者除籍ノ項ニハ一人ニシテ兩所ニ本籍ヲ有スルニヨリ一方ヲ削除シタル者ヲ記入スヘシ

一外國へ送籍者ノ項ニハ婚姻ニ依リ外國へ送籍シタル者ヲ記入スヘシ

一府縣内送籍又ハ入籍ノ項ニハ一府縣ニ於テ本郡ト他郡トヲ問ハス總テ他ノ市町村へ送籍シ又他ノ市町村ヨリ入籍シタル者ヲ記入スヘシ但東京市京都市大坂市ハ他區へ送籍シ又他區ヨリ入籍シタル者ヲ記入スヘシ又市制施行セサル區ニ在リテハ區外へ送籍シ又區外ヨリ入籍シタル者ヲ記入スヘシ



- 一本表ハ華族士族平民タルニ拘ラス十二月三十一日現ニ耕作業又ハ捕魚採藻等ニ従事スル者ノ戸數ヲ調査スルモノトス但戸數ノ記入方ハ第一表ニ同シ
- 一本表ハ戸内各人ノ職業ニ拘ラス該戸ノ首長タル者(戸主タル者ト戸主タラサル者トヲ問ハス)ノ營ム職業ニ依リ其事實ヲ採集スルモノトス
- 一該戸ノ首長タル者事故アリテ自ラ家業ヲ營マスト雖モ其家ニ於テ之ニ代ル者アルトキハ尙ホ本表ノ戸數ニ算入スヘシ
- 一耕作業ヲ専業トシテ自作ト小作トヲ兼ル者又之ヲ兼業トシテ自作ト小作トヲ兼ル者ハ自作小作ノ内重ナル方ニ記入スヘシ
- 一捕魚採藻業者ニシテ耕作業ノ自作ト小作トヲ兼ル者亦前項ニ同シ
- 一専業ノ欄ニハ耕作又ハ捕魚採藻ノ業ヲ一途ニ營ム者ヲ記入スヘシ
- 一耕作業中兼業ノ欄ニハ耕作業ヲ本トスルト否トヲ問ハス總テ該業ト他ノ業(捕魚採藻業ヲ除ク)トヲ併セ營ム者ヲ記入スヘシ

- 一耕作業中捕魚採藻兼業ノ欄ニハ耕作業ヲ本トシテ捕魚採藻業ヲ兼テ營ム者ヲ記入スヘシ
  - 一捕魚採藻業中兼業ノ欄ニハ捕魚採藻業ヲ本トスルト否トヲ問ハス總テ該業ト他ノ業(耕作業ヲ除ク)トヲ併セ營ム者ヲ記入スヘシ
  - 一捕魚採藻業中耕作兼業ノ欄ニハ捕魚採藻業ヲ本トシテ耕作業ヲ兼テ營ム者ヲ記入スヘシ
- 三重縣訓令甲第九十九號 二十三年十一月二十一日 直稅分署 間稅分署
- 内國稅徵收費所屬物品出納順序及物品使用規程(直稅間稅)分署日常必需品購求手續別冊之通改定シ之レニ抵觸スル從前ノ令達ハ總テ廢止ス
- 但別冊ハ直稅分署ヨリ配付ス

○三重縣訓令甲第百號 二十三年十一月二十一日 郡市役所 町村役場

明治十九年(十月)訓令第百五十五號勸業通信統計報告規則中第五條ヲ左ノ通改正ス

第五條 報告中平年收穫ハ前期十箇年間收穫高ノ平均數ヲ以テ後期十箇年間ノ平年作ト定メ其増減歩合ハ百分率ヲ用フヘシ

但明治二十三年ヨリ向フ十箇年間ハ明治十三年ヨリ明治廿二年ニ至ル十箇年間收穫高ノ平均數ヲ取り自後每期追次此例ニ依ルヘシ尤モ米麥ヲ除ク他ノ種類ニシテ前期十箇年ノ平均數ヲ得カタキモノハ十箇年以下ノ年數ヲ以テ平均ヲ取ルモ妨ケナシ

○三重縣訓令甲第百一號 二十三年十一月二十五日 郡市役所 町村役場

徵發物件調査手續左ノ通相定ム

徵發物件調査手續

第三號ノ一

一 本表ハ美濃紙ヲ用ヒルモノトス以下諸表之ニ同シ

二 乙部上欄第二行(何町)第三行(何村)ハ町村ノ區域内人家連接セルト散在セルトニ拘ハラズ町村制實施ノ際他町村ト合併セサリシモノヲ掲グルモノトス

町村制實施ノ際數町村ヲ合併シテ成立シタル新町村ニシテ其町村内ノ人家連接セルモノモ亦第二第三行ニ記載ス其人家各部落ニ散在シタルモノハ第四行ニ記載スルモノトス

三 同第五行組合町村ハ乙部第二行第三行ノ例ヲ本書第一行ニ記シ乙部第四行ノ例ヲ本書第二行ニ記スヘキモノトス

四 家屋書内戸數ハ現在軒數ヲ掲クヘキモノニシテ其軒數トハ官廳寺院學校製造所水車場ヲ除クノ外人ノ現在住居スルト否トニ拘ハラズ市區町村内ニ現在スル家屋ノ棟數ヲ云フ又家屋ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市區役所町村役場等ニ使用スルモノモ本書ニ算入スヘキモノトス

同總坪數ハ家屋ノ總坪數ヲ記入ス又家屋ノ全部若クハ幾部官署學校市區役所町村役場等ニ使用スルモノモ亦算入スヘキモノトス

同宿舍用坪數ハ官署學校市區役所町村役場等ニ使用スルモノヲ除キ計算スヘキモノ



トス

五 官廳書ハ官署及市區役所町村役場等ノ箇數ヲ記入スヘキモノトス

六 寺院書内軒數ハ寺院内ニ堂庵幾棟數アルモ之レヲ分別セス一寺院ヲ一軒トシ計算ス

ヘキモノトス

同總坪數ハ各寺院ノ總坪數ヲ合算ス又寺院ノ全部若クハ幾部ノ官署學校市區役所町

村役場等ニ使用スルモノモ算入スヘキモノトス

同宿舍用坪數ハ官署學校市區役所町村役場等ニ使用スルモノヲ除キ計算スヘキモノ

トス

七 學校書内軒數ハ學校内ニ教場寄宿舎等幾棟アルモ之レヲ分別セス一學校ヲ一軒トシ

計算スヘキモノトス

同坪數各學校ノ總坪數ヲ合算スヘキモノトス

八 製造所ハ公立私立ノ別ナク又製造物品ノ種類如何ニ拘ハラズ總テ掲クヘキモノトス

但官立ニ係ルモノハ官廳ノ箇數ニ記入スヘキモノトス

九 水車場ハ水車及蒸氣器械ノ別ナク一日一石以上ヲ搗春スル箇數ヲ記入スヘキモノト

ス

十 病院書内軒數ハ病院内ニ病室幾棟數アルモ之レヲ分別セス一病院ヲ一軒トシ計算ス

ヘキモノトス

十一 日本形船舶書内舢舨小廻ノ書ハ日本形船舶五十石未満及倉庫船水田耕作用船及水

災豫備船ヲ算入シ汽船ニ非サル西洋形船舶二十噸以上ハ五十石以上ノ書ハ二十噸未

滿ハ舢舨小廻ノ書ハ朱書列記スヘキモノトス但遊船渡船橋用船ハ表上スルニ及ハス

十二 醫師及職工ノ順序ハ表式ノ順序ニ從ヒ記入ス職工ハ他ノ職工ヲ混入セス表式ニ記

載シタル職工ニ限リ記入スヘキモノトス但一名ニシテ兩業ヲ兼ヌルモノハ木挽

職ニテ杣職ヲ兼ヌルモノハ木挽職何名(内何名杣職兼業)ト記入シ杣職何名ノ内へ算

入セサルモノトス又表式職工中其郡市ニナキモノハ其ナキヲ記スルニ及ハス

第三號ノ二

- 一 本表記載方ハ前第三號ノ一第二項第三項ノ例ニ依リ調製スヘキモノトス
- 二 乘馬ハ現在乘馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ乘馬ニ役セシモノハ現今駕馬馱馬耕馬ニ役スルモノト雖トモ乘馬ノ書ニ記載スヘキモノトス
- 三 駕馬ハ現在駕馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ駕馬ニ役セシモノヲ除ク 現在乘馬ハ現今馱馬耕馬ニ役スルモノト雖トモ駕馬ノ書ニ記載スヘキモノトス
- 四 馱馬ハ現在馱馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ馱馬ニ役セシモノ 現在乘馬馱馬ハ現今耕馬ニ役スルモノト雖トモ馱馬ノ書ニ記載スヘキモノトス

第三號ノ三

- 一 玄米ハ陸米糯米トモ算入スヘキモノトス
- 二 漬物ハ澤庵漬ヲ記入スヘキモノトス
- 三 一樽ハ四斗入ヲ以テ計算スヘキモノトス

○三重縣訓令甲第百二號 二十三年十一月二十八日

町村役場

保護銃免許証ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ明治九年(十月)天甲第六十四號布達保護銃規則ニ抵觸セサルヤ否ヲ取調其抵觸セサルモノハ其旨ヲ願書ニ與書シテ進達スヘシ

○三重縣訓令甲第百三號 二十三年十一月二十八日

郡市役所

明治九年(九月)天甲第六十四號布達保護銃規則ニヨリ下付スル空發保護銃免許証ヲ指令書ヲ以之ニ充テ本年(十一月)訓令甲第九十三號鳥獸獵及保護銃免許証取扱手續中右ニ抵觸スル廉ハ消滅或ハ變更セシ儀ト心得ヘシ

○三重縣訓令甲第百四號 二十三年十一月二十八日

警察署 分署

明治二十二年(七月)三重縣訓令第七十五號巡查配置人員中外勤巡查左ノ通増加ス

松坂警察署

三人

木ノ本警察署

二人

○三重縣訓令甲第百五號 二十三年十一月二十八日

町村役場

明治十六年本縣乙第二百二十三號達ヲ廢止ス

○三重縣訓令甲第六六號 二十三年十二月二日

郡市役所 町村役場

廣島縣下三潞郡神杉村役場本年十一月十六日燒失書類有ニ屬シ候ニ付同役場へ照會中ノ事件ニテ未結了ノモノハ更ニ照會スヘシ

○三重縣訓令甲第七七號 二十三年十二月五日 郡役所 警察署 警察分署 直稅分署

本年(三月)本縣訓令甲第二十六號同甲第二十八號諸收入金取扱手續中(警察分署長)ノ文字ハ都テ削除候條自今警察分署ニ於テ違警罪科料等ノ處分ヲナセントキハ直ニ其所屬警察署ニ通知シ該警察署長ニ於テ調定ノ手續ヲナスヘシ

○三重縣訓令甲第八八號 二十三年十二月五日 郡市役所 町村役場

朽木縣下都賀郡部屋村役場去ル十一月二十一日火災ノ爲メ書類悉皆燒失ノ趣ニ付該役場ニ對シ同日以前照會中ノ事件ニシテ未結了ノ分ハ更ニ照會スヘシ

○三重縣訓令甲第九九號 二十三年十二月九日 直稅分署 間稅分署

内國稅徵收費所屬文具料支給規則別紙之通相定ム

(別紙)

内國稅徵收費所屬文具料支給規則

第一項 此規則ニ於テ文具ト稱スルハ明治二十二年(二月)閣令第四號文具支給規則第一條ニ掲ケラレタル物品ヲ總稱ス

第二項 官吏及僱員ニハ現品ヲ給セス文具料トシテ左ノ等級ニ應シ代料ヲ支給ス

一等 一ヶ月金貳拾五錢 簿記及書記事務者

二等 同 金拾五錢 普通官吏及僱員等

第三項 前項ノ代料ハ一ヶ年度ヲ四期ニ分チ七月、十月、七月、四月ヲ以テ(休日ニ當ラ)支給ノ定日トス但專任非職廢官退官死亡ノキハ其都度之レヲ支給ス

第四項 新任轉任非職廢官退官死亡欠勤トモ其月ニ相當スル文具料ハ十五日前後ヲ區分シ半額又ハ全額ヲ支給ス

第五 非職廢官退官ノ者事務引繼殘務取調ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙従前ノ文具料ヲ支給ス

第六項 欠勤及本則第二項ニ掲クル等級變換ノ場合ニ於テ支給上ニ異動ヲ生シタル片ハ直間稅署ハ各課長直間稅分署ハ分署長ヨリ收稅長ニ報告スヘシ

第七項 直間稅署ニ於テ給仕ノ使用スル文具ハ代料ヲ給セス都テ現品ヲ下付ス

第八項 直間稅分署ノ應接所及人民扣所ヘハ定數ヲ設ケ現品ヲ下付ス

第九項 枚數當リヲ以テ備入ル、筆工ノ使用スル文具ハ各自ノ自辨トシ代料及現品トモ之レヲ給セス

○三重縣訓令甲第一百號 二十三年十二月十二日 郡市役所 町村役場

船籍規則ニヨリ市町村役場ニ於テ新ニ船籍ノ編入ヲナシタル片ハ其彙帳ニハ船籍規則施行細則第一號及ヒ第二號件名書ニ記載スル各項及ヒ登簿ノ年月日ヲ登載シ爾後變更ヲ生シタル片ハ其變更ニ屬スル項目ノヨリ摘載シ之ヲ除籍スル片ハ其事由ヲ朱書スヘシ

○三重縣訓令甲第一百一號 二十三年十二月十二日 沿海郡市役所

縣令第五十五號ヲ以テ郡市長委任條件追加候ニ付テハ船舶積量測度ノ申請ヲ受ケタル片ハ船籍規則施行細則第三條第一項ノ手續ヲ了シ而シテ本假船籍證書ノ交付ヲ願出タル場合ニハ願書々類測度表ヲ添ヘ進達スヘシ

○三重縣訓令甲第一百十二號 二十三年十二月十二日 郡役所 町村役場

明治十七年(五月)乙第八十九號内國船難破及流失漂着物取扱手續第二十一條ヲ左ノ如ク改正ス

第二十一條 一ヶ年ヲ過タルノ後直チニ公賣ノ處分ヲ結了シ第七號書式ノ仕譯書ヲ添ヘ官納ニ係ル金員ハ郡長ニ上納スヘシ

前項官納金ヲ領收シタル片ハ明治二十三年(一月)勅令第二號及ヒ同年(三月)大藏省令第八號ニ據リ郡役所出納官吏ニ於テ保管金送付書ヲ製シ現金ト共ニ之ヲ其地金庫ニ送付シ仕譯書ハ當廳ヘ差出スヘシ

○三重縣訓令甲第十三號 二十三年十二月十二日 郡市役所 町村役場  
本年當縣訓令甲第一百一號徵發物件調查手續第三號ノ一第四項中水車場ノ下ハ「倉庫麻病院」ノ五字ヲ追加ス

○三重縣訓令甲第十四號 二十三年十二月十六日 郡市役所 町村役場

神奈川縣三浦郡橫須賀町役場去ル十一月三十日火災ニ罹リ書類過半燒失ノ趣ニ付同日以前同役場ニ對スル照會事件ニシテ應答未濟ノ分ハ更ニ照會スヘシ

○三重縣訓令甲第一百五號 二十三年十二月十六日

三重朝明度會阿拜山田北半婁郡役所 榎毒病院  
四日市上野山田尾鷲警察署

明治二十二年(三月)訓令第四十號榎毒病院費取扱手續左ノ通り改正ス

榎毒病院費出納順序

第一條 榎毒病院費及ヒ之ニ屬スル雜收入ハ郡役所(榎毒病院所在地ノ郡)ニ於テ出納ヲ執行スルモノトス

第二條 徵毒病院費ハ毎月概算ヲ以テ縣廳ヨリ郡役所ヘ交付スヘシ徵毒病院ニ於テ費金ノ支拂ヲ要スルトキハ其都度正當受取人ノ請求書若クハ精算書ヲ調査シ受取人ノ住所姓名及金員事由ヲ詳記シ郡役所ヘ請求スヘシ

第三條 郡役所ニ於テ費金ノ交付ヲ受ケタルトキハ臨時寄托ヘ收入シ仕拂請求ヲ受クル都度之ヲ支出シ領收証(領收証ヲ得難キモノハ仕)ヲ徵シ一ヶ月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ徵毒病院ヘ送付スヘシ

第四條 徵毒病院ニ於テハ一ヶ月毎ニ其支出ヲ要セシ金員科目ヲ摘載シタル計算書ヲ製シ之ニ前條ノ領收証(内譯ヲ要スルモノハ仕譯)ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ縣廳ヘ進達スヘシ

第五條 徵毒病院費ニ屬スル雜收入ハ其收入スヘキ事由及金額并ニ住所姓名ヲ詳記シ郡役所ヘ通報スヘシ郡役所ニ於テハ該通報書ニヨリ地方稅雜收入收納規則ニ從ヒ之レカ收納ヲ了スヘシ

第六條 梅毒病院ニ於テハ毎年六月三十日迄ニ前年度雜收入精算書

(明治廿年九月訓令 第千二百十九號書

式ニ)ヲ調製シ縣廳へ進達スヘシ

第七條 梅毒病院ニ於テハ各年度毎ニ左ノ簿冊ヲ設備スヘシ若シ之レヲ變更セントスル

片ハ其事由ヲ具シ縣廳へ伺出ツヘシ

某年度金錢受拂簿 (書式從前ノ通)

本籍ハ梅毒病院費并ニ雜收入等收支ヲ要スル都度記簿スルモノニシテ經費ハ各科

目ニ口別シ豫算額ヲ元ノ部ニ記入シ其支出ヲ要スル金額ハ拂ノ部ニ記入シ差引殘

高ヲ殘ノ部ニ記入スヘシ又雜收入ハ郡役所へ通報書ニヨリ記入シ常ニ豫算殘高若

クハ收入金ヲ明瞭ナラシムルモノトス

第八條 前條ニ掲グルモノ、外ハ一般ノ規定ニヨル

○三重縣訓令甲第百十六號 二十三年十二月十九日 郡市役所 町村役場

客年六月本縣訓令第七十二號第四項ハ本年限リ削除ス

○三重縣訓令甲第百十七號 二十三年十二月十九日

梅毒検査所々在地郡役所 全上警察署  
全上分署 梅毒病院

梅毒検査手續左ノ通相定ム

梅毒検査手續

第一條 娼妓檢査期日ハ第一號表(別冊)ノ通指定シ時限ハ日出後日没前ヲ限トシ郡長ニ

於テ適宜量定シ之ヲ營業者ニ指示スヘシ

但祭祀日ニ該當スル片ハ順延スルモ妨ケナシ

第二條 帶徵娼妓ニ入院ヲ命スヘキ梅毒病院所轄區域左ノ如シ

四日市梅毒病院

桑名郡 桑名町 長島町

三重郡 四日市町 菟野村

河曲郡 神戸町

鈴鹿郡 石藥師村  
 津澁毒病院  
 河曲郡 若松村  
 奄藝郡 白子町 上野村 椋本村 一身田村  
 鈴鹿郡 龜山町 關町  
 津市  
 一志郡 久居町  
 飯高郡 松坂町  
 宇治山田澁毒病院  
 度會郡 宇治山田町 神社町 大湊町 鵜倉村  
 若志郡 烏羽町 的矢村 安乘村  
 英虞郡 濱島村

尾鷲澁毒病院  
 北牟婁郡 尾鷲町 引本村  
 南牟婁郡 荒坂村  
 上野澁毒病院  
 阿拜郡 上野町  
 名張郡 名張町

第三條 娼妓ニハ澁毒検査票第二號雛形(別冊)ヲ豫メ渡シ置キ検査期日ニ携帶シ検査票ニ差出シ検査了ル毎ニ醫員ノ認印ヲ受ケシムヘシ  
 但検査票ヲ渡シタル後移住改姓名等異動ヲ生シタルトキハ出張ノ檢襟醫又ハ世話掛ヲシテ訂正セシムヘシ

第四條 娼妓入院又ハ全治退院ヲ命セラレタル片ハ貸座敷主ヨリ入退院ノ月日穢地氏名年齢及鑑札番號等ヲ明記シ其旨郡役所ニ届出シムヘシ

第五條 檢牒ノ際ハ檢牒醫世話掛及付添婦人ノ外濫リニ室内ニ入ルヲ禁スヘシ

第六條 免許地貸座敷主(貸座敷アラサル地ハ娼妓)ニ檢牒世話掛ヲ撰舉セシメ檢査所ニ出張シテ檢牒醫ノ指示ニ從ヒ檢牒ニ關スル一切ノ世話ヲナサシムヘシ

但手當ヲ給スルト否トハ同業者ノ協議ニ任スヘシ

第七條 檢牒檢査ハ檢牒醫ニ於テ執行セシムルニ付期日出張セシムヘシ

第八條 檢牒醫ニハ娼妓人名簿ヲ製シ出張ノ都度對査シテ遺漏ナカラシムヘシ

但有毒ニシテ入院ノモノハ名簿ニ附箋ヲ爲シ退院ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ剝取ラシムヘシ

第九條 郡役所ニ於テハ新ニ娼妓營業者クハ廢業等ニテ異動ヲ生シタル片ハ其人名及鑑札番號營業地名等ヲ檢牒醫ニ通知シ名簿ヲ訂正セシムヘシ

第十條 檢牒ハ檢牒室ニ於テ身体ノ下部ノミナラス其全身ヲ精密ニ檢査セシムヘシ

第十一條 前條檢査ニ於テ無毒ノモノハ受檢者携帶ノ檢査票ニ認印ヲ捺シ有毒ノ者ハ入

院印及認印ヲ捺シ期日ヲ指定シテ入院ヲ命セシムヘシ

第十二條 檢牒醫ニ於テ有毒者ニ入院ヲ命シタル片ハ其娼妓ノ稼地姓名病名症候入院ヲ命シタル日月時ヲ記シタル書面ヲ造リ速ニ所屬病院ニ通知セシムヘシ

第十三條 有毒者ハ即日入院ヲ命セシムヘシ

但道路懸隔即日入院シカタク場所ニ限リ八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第十四條 檢毒病院ニ入院ヲ命スル病症左ノ如シ

但檢牒醫ニ於テ雜症中全ク傳染ノ虞ナシト確認スルモノハ此限ニアラス

一 眞症梅毒

局發症 硬性下疳 汎發症 蕁麻疹 錢苔癬 鱗屑斑

以上斑狀梅毒

粟粒疹 扁豆疹 滋疹 扁平贅肉

以上疹狀梅毒



水泡 小膿瘰 大膿泡

以上泡狀泡毒

水脈腺硬腫 瘰毒腺腫 虹彩炎 骨膜炎

以上泡狀炎症

一 仮症瘰毒

局發症 軟性下疳 便毒

一 雜症

麻疹 白常下及膈炎 子宮口潰瘍 剝脫痔疾

一 疥癬

第十五條 期日不參ノ娼妓アル片ハ不參及遲參ノ事由ヲ詳記シタル届書ヲ領シ郡役所ニ

差出サシムヘシ

第十六條 前條ノ場合ニ於テハ時宜ニ依リ本人所在ノ家宅ニ就キ檢瘰セシムルヲ得ヘシ

第十七條 瘰毒檢査所ハ檢査期日表ニ掲記スル場所ニ限リ允許スルヲ得

但本文ノ場合ニ於テハ檢査所々轄區域内同業者協議ノ上申請セシメ檢査所ニ適當ノ

準備ヲナサシメタル上認可シ其旨縣廳ニ報告スヘシ

第十八條 臨時瘰毒檢査所ハ豫メ郡役所ニ於テ便宜指定シ縣廳及檢査所所屬警察署ニ報

告スヘシ

附 則

一本則ハ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス

一明治二十年七月十五日警規第二十八號警規第二十九號ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

○三重縣訓令甲第百十八號 二十三年十二月十九日 瘰毒病院所在地警察署

瘰毒病院處務細則左ノ通相定ム

瘰毒病院處務細則

第一條 瘰毒病院ハ部内帶瘰娼妓ヲ診療スル所トス

第二條 梅毒病院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長 一人

醫員 若干人 (但シ上野尾鷲梅毒病院ニハ醫員ヲ置カス)

取締人 若干人

調劑生 若干人 (但シ上野尾鷲梅毒病院ニハ調劑生ヲ置カス)

看護人 若干人

第三條 院長ハ知事ノ命ヲ受テ院務ヲ幹理シ職員ヲ指揮監督ス

第四條 院長ハ職員出勤簿ヲ整備シ勤務ヲ勘査シ其功過ヲ知事ニ具狀ス

第五條 院長ハ院務上ニ係ル諸申牒ニ署名スヘシ且職員一身上ニ上ル願何届書ニ捺印シ

意見アレハ添申ス

第六條 院長ハ取締以下ニ除服出仕ヲ命シ其旨知事ニ開申ス

第七條 院長ハ院内取締細目ヲ規定シ知事ノ裁決ヲ得テ之ヲ施行ス

第八條 院長ハ毎年末別紙第一二三號ノ表ヲ調製シ翌年一月十五日迄ニ差出スヘシ

第九條 院長ハ入院患者ノ名簿ヲ備置シ其住所姓名年齢并ニ出入院ノ年月日ヲ詳記スヘシ

第十條 院長ハ院務上ニ付意見アルトキハ之ヲ知事ニ開申ス

第十一條 醫員ハ院長ヲ補助シ其不在ノ時ハ院長ヲ代理ス

第十二條 取締及調劑生看護ハ院長ノ命ニ從ヒ院内取締藥劑看護其他諸務ニ服ス

第十三條 縣廳ニ差出ス諸申牒ハ總テ郡役所ヲ經由スヘシ

第十四條 梅毒病院ハ病院所在地郡長ノ監督ヲ受クルモノトス

附則

一本則ハ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス

一明治十九年(十二月二十七日)警規第五十一號明治二十年(三月二十九日)警規第十五號

ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス





第一號表ニ同シ但シ本病ト煤毒ト併發ノ者ハ本人員本表ヘハ朱書シ且欄外ニ併發煤毒病名ヲ説明スルモノトス

第三號表

明治何年黴毒病院表

病院名	所在地	設立年月日	病院種類	病室坪數	院長氏名	患者數	醫員數	藥局員數	看病人ノ數
									男 女

備考

一病院建築種別ハ木造平屋木造二階屋煉瓦造平屋煉瓦造二階屋ノ別ヲ掲ケ病院坪數ハ病院總建坪病室坪數ハ病室ノ總坪數ヲ記入スルモノトス  
 一職員看病人ハ年末ノ現員ヲ記入スルモノトス

一患者ハ本年自一月間延人員(毎日ノ現人員ヲ)ヲ掲クルモノトス  
 ○三重縣訓令甲第百十九號 廿四年十二月十九日 檢煤所アル郡役所全上警察署檢査醫

檢煤醫服務概則左之通相定ム  
 檢煤醫服務概則

第一條 檢煤醫ハ郡長ノ指示ニ從ヒ左ノ事務ニ服ス

- 一 娼妓ノ檢煤

一 煤毒檢査所ノ事務

第二條 檢煤醫ハ毎月末別紙雛形ノ表ヲ製シ翌月五日迄ニ差出スヘシ

第三條 縣廳ニ差出ス諸申牒ハ總テ郡役所ヲ經由スヘシ

附則

一本則ハ明治廿四年一月一日ヨリ實施ス

一明治十九年(十二月二十七日)警規第五十二號明治二十年(三月廿九日)警規第十四號ハ



- 第一條 地租ノ既納金ヲ還付セラレタル片ハ市長町村長ハ其地租ニ對スル地租割公儲金ノ下戻ヲ各其本人ヨリ郡長市長ニ請求セシムヘシ
  - 第二條 郡長市長ハ前條既納金ノ下戻ノ申出ツルモノアリタル片ハ還付セラレタル地租額ニ對照ノ上其金額ヲ知事ニ請求スヘシ
  - 第三條 地租ヲ追收セラレタル片ハ市長ハ之レニ對スル地租割及ヒ公儲金ヲ追徴シ町村長ハ其地租額及年度ヲ郡長ニ報告スヘシ
  - 第四條 郡長ハ前條町村長ノ報告ヲ受ケタル片ハ其地直稅分署ニ就キ其地額ヲ照合シ町村ニ對シ地租割及公儲金追徴ノ合書ヲ發スヘシ
  - 第五條 郡長ハ市長ノ徵收濟報告表ハ毎年度ニ區分スヘシ
  - 第六條 前各條ニ掲ケル外地租割ニ係ルモノハ總テ地方稅徵收取扱順序ニ依リ公儲金ニ係ルモノハ明治二十年訓令第二百十三號備荒儲蓄金徵收順序ニ依ルヘシ
- 三重縣訓令甲第百二十一號 二十三年十二月廿六日  
 郡役所、監獄署、全支署、警察署、全分署、市役所、町村役場

今般内務大臣ヨリ六種傳染病豫防及消毒心得別冊ノ通訓令相成候ニ付自今六種傳染病豫防及消毒ノ方法ハ該心得書ニ基キ執行スヘシ

但明治十九年五月廿八日第八百八十七號全年五月三十一日第八百八十九號達明治二十三年七月十一日訓令甲第六十五號全年七月十一日訓令甲第六十六號全年八月五日訓令甲第六十九號ハ廢止ス

(別冊)

傳染病豫防心得書

傳染病ノ流行ハ一人一家ヨリ町村郡市ニ及ヒ遂ニ延テ府縣全國ノ災害トナルモノニシテ之ヲ豫防スルニハ一人一家ノ始メニ於テスルニ非サレハ其全功ヲ收ムルヲ能ハス今ヤ郡市町村各其利害ヲ負擔シ處理スルノ日ニ及テハ傳染病ノ如キ其病毒ヲ一人一家ニ撲滅シテ全聚落ノ生命財産ヲ安全ニ保護スルハ自治事業ノ最モ急要ナルモノトス故ニ若シ其市町村ニ傳染病者發生スルコトアレハ所在ノ醫師ハ成規ノ通報ヲ爲シ

豫防上ノ要件ヲ病家ニ示諭シ病家ハ醫師及ヒ當該吏員ノ示諭スル諸件ヲ守リ當該吏員ハ十分ノ注意ヲ以テ豫防消毒ノ處置ニ疎虞遺漏ナカラソコトヲ務ムヘシ而シテ豫防ノ方法ヲ實際ニ徹底セシメントスルニハ衛生組合ヲ設ケ組合中互ニ警戒扶持スルヲ良シトス蓋シ傳染病ノ流行ハ其初メ些細ノ注意ヲ缺キ或ハ患者ヲ隱蔽シ又ハ吐瀉物ヲ下水、芥溜等ニ投棄シ又ハ病毒感染ノ疑アル雇人稼人等ヲ狃リニ歸郷セシムル等ニ因リ病毒遠近ニ傳播シ復タ防遏スヘカラサルノ勢ヲナスコト其例證一ニシテ足ラス到底衛生組合ノ法ヲ設ケ隣保相互ノ制裁ヲ以テ各人ノ注意戒慎ヲ喚起スルニ非サルハ市町村共同ノ方法モ其全効ヲ收ムルコト能ハサルナリ

以上ハ豫防實施上市町村ニ於テ擔當スヘキ用意ノ要領ニシテ若シ其流行數市町村ニ及フカ若クハ病性ノ急劇ナル虎列刺ノ如キモノニ在テハ更ニ郡又ハ府縣ノ力ヲ以テ豫防ノ方法ヲ務メサルヘカラス

此心得書ハ主トシテ患者發生セル時ノ處置即チ有病時ノ豫防法ヲ擧ケタルモノナレ

ト總テ傳染病ハ地方病トナリテ年々發現スル地ヲ除クノ外ハ概テ數年若クハ數十年ヲ隔テ、流行スルカ故ニ其流行セサル時ニハ永ク本病ノ災害ヲ免カレ得タルカ如キ思フ爲スト雖ト傳染病毒ハ不潔汚穢ノ土地ニ入レハ容易ニ蕃殖蔓延スルモノナルヲ以テ平常上地下水ノ改良ニ注意シ掃除ノ方法ヲ設クル等万全根治ノ策ヲ怠ラス用水ヲ純精ニシ住地ヲ乾淨ナラシムルニ非サレハ決シテ其流行ヲ免カル、能ハス故ニ就中都會ノ地ニ於テハ銳意上地下水ノ改良工事即チ水道暗渠布設ノ事ヲ計畫シ衛生上百年ノ長計ヲ成スヲ要ス

總則

第一條 市町村ニ於テハ便宜衛生組合ヲ設ケ清潔法、攝生法其他傳染病豫防ノ事ニ就キ規約ヲ立テ之ヲ履行スルヲ要ス

第二條 醫師傳染病者ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サス成規ノ通知ヲ爲スハ勿論此心得書各病ノ部ニ掲ケタル豫防方法ヲ病家ニ懇諭スルヲ要ス



第三條 市町村ノ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ傳染病者ヲ診断セル旨醫師ノ通知ニ接シタルトキハ速ニ病家ニ臨ミ病室、器具、被服及ヒ便所等ノ消毒ヲ施行スル等相當ノ處分ヲ怠ラサソコトヲ要ス

前項醫師ノ通知ニ接セサルモ傳染病ニ疑ハシキ患者アルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其見込ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲スコト前項ノ如クナラソコトヲ要ス

第四條 傳染病者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員又ハ警察官吏時々之ヲ巡視シテ豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ニ注意シ又時宜ニ依リテハ人夫ヲシテ病室ニ汚染セルモノヲ取り集メシメ消毒法ヲ施スヲ要ス

第五條 傳染病者治癒又ハ死亡シタルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ患者ノ身體若クハ死屍看病人、患者ノ居室其他病室ニ汚染セル衣服、器具等ニ消毒法ヲ行フヲ要ス

第六條 總テ消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員、人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者運搬

器等モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヲ要ス

第七條 郡市北海道廳ニ於テハ區長其所轄内ニ傳染病發生シタルトキハ其豫防法ヲ周到ナラシメ

又有病地ノ病況ト豫防法實施ノ景況トヲ具シテ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

虎列刺

虎列刺ハ傳染病中ノ最モ猛惡ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ當テハ兇暴慘虐至ラサルナキコト世人ノ普ク熟知スル所ナリ抑モ本病ノ病室ハ一種ノ細菌ニシテ主トシテ患者ノ吐瀉物中ニ舍ルカ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノ、消毒法ニ遺漏ナカラシムルハ勿論患者發生ノ最初即チ病室ノ未タ散蔓セサル前ニ於テ十分消毒法ヲ行ヒ病室ヲ其一小局部ニ熄滅セサルヘカラス

第一條 虎列刺患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト

二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院

- 或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケルムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
  - 四 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ撰ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ其吐瀉物ハ成ルヘク之ヲ燒却スルコト
  - 五 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト
  - 六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ吐瀉物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フルコト
  - 七 患者ノ身體、吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者

- ノ居室ニ蚊帳ヲ張ル片ハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト
- 八 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ吐瀉物ニ觸レサル様注意シ且ツ其吐瀉物及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フルコト
  - 九 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ決シテ患者ノ外飲食スヘカラサルコト
  - 十 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト
- 第二條 虎列刺發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲ササルコト
  - 二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト

- 三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ改修スルコト
- 四 飲食物ハ成ルヘク熟煮シテ用フルコト
- 五 總テ下利ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且ツ其下利患者ノ上レル便所ニハ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌クコト
- 第三條 虎列刺流行ノ際下利若クハ吐瀉スル者アルトキハ其糞下物吐出物ニ石灰乳、又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌キ醫師ノ診斷ヲ乞フヘシ
- 第四條 虎列刺發生ノ初ニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムルトキハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ
  - 一 該患者アリタル家一軒立ニ係ル片ハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖モ別棟等判然區別スルヲ得ヘキ片ハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔穢穢ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ

- 二 前項及傳染病豫防規則第十五條第二項ノ場合ニ於テ交通遮斷ヲ施行スルトキハ遮斷部分ノ區域ヲ明示シ醫師、掛吏員、人夫等職務上要用アル者ノ外他ト交通ヲ制止スルコト
  - 三 交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト
  - 四 交通遮斷中ハ市町村吏員又ハ警察官吏ニ於テ其區域内ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師ヲシテ區域内ノ各家ヲ巡診セシメ且豫防法ヲ諭示セシムルコト
  - 五 患者治癒若クハ死亡シ又ハ患者ヲ避病院ニ隔離スル等遮斷區域内ノ患者全ク絶テヨリ五日間ヲ經過スルモ新患者ヲ發生セサルトキハ遮斷ヲ解除スルコト
  - 六 遮斷區域内ノ患者絶ヘサルモ區域外ニ患者ヲ發生シ病毒已ニ他方ニ及ヒタリト認ムルトキハ速ニ遮斷ヲ解除スルコト
- 第五條 交通遮斷區域内若クハ曾テ虎列刺ノ流行アリシ不潔ノ場所ニ於テハ左ノ方法ニ

據リテ消毒的清潔法ヲ施行スルコト

一 下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通セシムルコト

二 芥留ノ塵芥ハ成ルヘク之ヲ焼却シ若シ焼却スルヲ得サル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周テ撒布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ尙ホ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ大掃除ヲナス

一 家什ヲ出シ疊ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具、疊、建具等ハ日光、空氣ニ曝スコト

二 床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク其跡ニ就キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト

三 衣服臥具ハ殊ニ能ク日光、空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト

第六條 虎刺列流行ノ虞アルキハ其市町村又ハ郡若クハ府縣ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行

行スルヲ要ス

一 芥留ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スル

二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スル

三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムル

第七條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、郡市町村吏員等及警察官吏衛生官吏等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒ノ事ヲ擔當セシムルヲ要ス

腸室扶私

腸室扶私ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ舍リ虎刺列病毒ノ如ク不潔汚穢ノ土地ニ蓄殖瀰漫シ廣ク流行ノ勢ヲ成スモノナレハ其豫防ノ方法ニ至テモ虎刺列ト畧ホ其趣ヲ同フス抑モ本病ハ六種傳染病中最モ多キ疾病ニシテ各地方年々其患者ヲ發生シ流行ノ兆ヲ見サルナレ明治十三年傳染病豫防規則發付以來十年間ノ患者三拾壹万餘死

亡七萬餘ノ多キニ及ヒ加フルニ流行時期ノ長キ病症經過ノ久シキ以テ公衆ノ安全幸福ヲ損害スルニ至テハ却テ虎列刺ヨリ甚キモノアツトス故ニ本病流行ノ兆アルニ當テハ速ニ十分ノ力ヲ盡シテ之ヲ撲滅シ併セテ第二ノ流行ヲ豫防センコトニ怠ルナカラソヲ要ス

第一條 腸窒扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト
- 五 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ撰ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ澆

キ所定ノ便所ニ移スコト

- 六 患者ノ上リタル便所ニハ少クナモ糞量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ澆キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ澆クコト
- 七 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
- 八 患者ノ身體、糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ糞便ニ汚染セサル様注意スルコト
- 九 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸レサル様注意シ且ツ其糞便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フ
- 十 患者ト居フ同フスル者ハ特ニ飲食食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ之ヲ用ヒ

サルコト

- 第二條 腸窒扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サハルコト
  - 二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト
  - 三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セサルモノハ速ニ之ヲ改修スルコト
  - 四 飲食物ハ成ルヘク煮熟シテ之ヲ用フルコト
  - 五 總テ熱性病ニ罹リ又ハ下利ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 第三條 腸窒扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

- 一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ改修スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト
  - 二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
  - 三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト
- 第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

赤痢

赤痢ハ其病毒專ラ患者ノ糞下物中ニ含リ之ヨリ傳染スルモノニシテ病性大ニ腸窒扶私ト類似スルモノナリ故ニ其豫防消毒ニ於テモ略ホ腸窒扶私ト同一ノ方法ニ據リ而シテ流行時ニ於テハ糞下物中ニ血液ヲ混セサル患者ト雖モ本病者ト同様ニ取扱フヲ要ス

抑本病ハ腸窒扶私ト同シテ頗ル慘毒ヲ逞クスルモノニシテ明治十三年以來十年間ノ

患者數殆ト貳拾萬ノ多キニ及ヒ殊ニ九州四國ノ諸縣ノ如キハ年一年ニ流行ノ勢ヲナシ病毒漸次ニ全國ニ浸淫セントス故ニ本病ノ年々發現スル地方ニ於テハ土地ノ清潔ヲ力メ殊ニ飲料水ニ注意シ下水ヲ浚渫シ發病時ニ當テハ撲滅ノ方法ニ十分ノ力ヲ尽シテ第二ノ流行ヲ防ク等總テ腸窒扶私ニ於ケルカ如クナラソヲ要ス

實布埤里亞

實布埤里亞(格魯布)ハ多クハ未成年者殊ニ幼童嬰兒ヲ侵シ其幼稚ナル者ハ症狀最險惡ナリ抑モ本病ノ病毒ハ咽頭喉頭ノ如キ部分ニ含リテ患者ノ痰唾、鼻汗其他患者ノ使用セル衣服、玩具等ノ媒介ニ依リテ傳染ス故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ患者ト健康者殊ニ兒童トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ小學校、幼稚園等兒童ノ群集スル場所ハ往々本病傳播ノ中心トナルカ故ニ流行ノ兆アル場合ニ於テハ特ニ注意スルヲ緊要トス

第一條 實布埤里亞(格魯布)又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ

要ス

- 一 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校、入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト
- 二 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶チ殊ニ兒童ハ一切立入ラシメサルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 看病人ハ他ノ兒童ト接近セサル様注意シ數々硼酸水又ハ鹽酸加里水等ヲ以テ含嗽シ且ツ患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ鼻香水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 五 患者ノ痰唾、鼻汗ヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ蓋覆ヲ有スル容器ニ取纏メテ燒却スルコト又患者ノ含嗽シタル藥水モ石炭酸水ヲ加ヘ消毒シタル後所定ノ便所ニ入ル、コト

- 六 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
  - 七 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
  - 八 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ患者ノ痰唾、鼻汁ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
  - 九 患者恢復ニ趣クモ醫師ニ於テ全治ト認メ且ツ消毒法ヲ行ハサル間ハ他ノ兒童ト遊戯セシメサルコト
- 第二條 實布埜里亞(格魯布)發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設テアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
- 一 患者アル家ニハ兒童ヲシテ交通セシメサルコト

- 二 兒童ヲシテ感冒ニ罹ラシメサル様注意スルコト
  - 三 兒童ノ感冒ニ罹ル者アルトキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムルコト
- 第三條 實布埜里亞(格魯布)患者頻々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス
- 一 醫師ヲシテ小學校、幼稚園ニ就キ其兒童ヲ診察セシムルコト
  - 二 小學校、幼稚園ノ教員ト協議シテ左ノ豫防法ヲ實行スルコト
    - 一 患者アル家ノ兒童ハ其患者全治又ハ死亡シタル後又他家へ避ケタルトキハ其避ケタル日ヨリ三週間ヲ經ル迄登校、入園ヲ禁スルコト
    - 二 兒童中咳嗽或ハ發熱スル者アルトキハ速ニ退場セシメ且ツ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘキ旨ヲ其家人ニ勸告スルコト
    - 三 生徒ノ缺席數日ニ及フモノアルトキハ其家ニ就テ缺席ノ理由ヲ問フコト
    - 四 出頭時刻ヲ晚クシ退散時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷ノ氣ニ觸レシメサルコト



ト

- 五 唱歌其他高聲ヲ發スル課業ヲ禁スルコト
- 六 教場ハ一層清潔ニ掃除シ休息時間ニハ悉皆窓戶ヲ開放シテ十分ニ空氣ヲ流通セシムルコト
- 七 教場内處々ニ適宜ノ瓶、壺等ヲ備ヘテ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ生徒ノ痰、唾ハ此器中ニ吐カシムルコト
- 第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシメ又其病勢ニ至リテハ小學校、幼稚園ヲ閉鎖スルヲ要ス

發疹室扶私

發疹室扶私ハ其病毒患者ノ身體ヨリ揮散シ傳染スルモノニシテ傳播ノ最モ迅速ナルモノナリ其一タヒ流行ノ兆ヲ呈ハヌマヤ忽チ散漫傳播シ殊ニ貧民部落等群集雜居ノ場

所ニ侵入スル片ハ其家屋ノ不潔狹隘ニシテ空氣ノ流通不良ナルヨリ傳染ノ力モ一層猛劇トナリ全郡ノ人衆ヲ侵害スルニ至ル故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ速ニ患者ト健康者トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ貧民部落ニ侵入セル片ハ避病院又ハ療養所ノ開設、貧民救療法ノ普及ヲ怠ルヘカラス

第一條 發疹室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病人届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院若クハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 看病人患者ノ居室ヲ出ツル片ハ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 五 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ澆キ所定

ノ便所ニ移スコト

六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他總テ患者ノ身體ニ接觸セルモノ及ヒ  
看病人ノ衣服ハ之ヲ取總テ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

第二條 發疹室扶私發生シタル片ハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但  
衛生組合ノ設ケアル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

二 家屋ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ニ注意スルコト

三 身體衣服ヲ清潔ニシ過度ノ勞力、露臥、夜行等身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ慎ムコト

四 總テ熱性病ニ罹ル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 發疹室扶私患者續々發生スル片ハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要  
ス

一 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシム

二 患者アル家ニ近接セル各家ニ大掃除ヲナサシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法  
ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

痘 瘡

痘瘡ノ病毒ハ痘漿、痘液中ニ含レルハ勿論患者ノ身體ヨリ發出スル蒸發氣中ニモ之  
ヲ含ミ傳染力ノ強烈ナル遙ニ他病ノ上ニ出ツ故ニ一枚ノ弊衣ヨリ病毒ヲ傳ヘテ遂ニ  
無數ノ人衆ヲ侵セルカ如キハ往々觀ル所ナリトス抑モ痘瘡ニハ種痘ノ如キ万全ノ豫  
防法アリテ能ク其患害ヲ未然ニ防制シ得ヘント雖モ再三之ヲ反復セサレハ其効全カ  
ラサルヲ以テ苟クモ本病發生スル片ハ健康者ニハ臨時種痘ヲ普及セシメ患者ニハ密  
ニ消毒法ヲ行ヒ二者相待テ十分ニ病毒ヲ撲滅セシムルヲ要ス而シテ從來ノ經驗ニ據ル  
ニ保姆、看病人タル者親シク患者ヲ介抱シ痘瘡ニ汚染セラル、モ其手足、衣服等ニ  
十分ノ消毒法ヲ行ハサルヨリ病毒ヲ傳播セシムルノ例甚タ多シ深ク戒ムヘキト、ス

第一條 痘瘡又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ノ外未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘ヲ爲スコト
- 二 患者ノ外ニ兒童アル片ハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケンメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄學校、入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト
- 三 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 四 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 五 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 六 患者ノ居室ニハ蓋覆ヲ有スル壺等ヲ備ヘテ汚物ノ容器ト爲シ豫メ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル布片、紙片又ハ落痂及ヒ居室内ノ塵埃等ハ必ス此器中ニ

入ル、コト但器中ノ汚物ハ藁、鈎屑等ノ燃料ヲ加ヘ石炭油ヲ灌キテ之ヲ燒却スルコト

七 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ニ昇汞水ヲ以テ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

八 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

九 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

十 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

十一 患者ノ身體及ヒ痘漿ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ聚マラサル様之ヲ防ク

十二 患者ノ痘瘡落痂ヌルルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非サレハ他

ノ兒童ニ交ハリ又ハ混浴ノ風呂屋ニ入浴セシムヘカラス

第二條 痘瘡發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

二 未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘スルコト

三 痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 痘瘡患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ消毒ノ施行ニ一層ノ注意ヲ加ヘ種痘規則第三條ニ依リ臨時ニ種痘ヲ普及セシムルヲ要ス

○消毒方

傳染病毒ハ其本體己ニ群ナルアリ未タ群ナラサルアリト雖モ要スルニ生々蕃殖ノ機能ヲ具ヘタル一種微細ノ有機體ナルハ疑ヲ容レヌ此有機體タル各病孰レモ其性狀ヲ異ニシ傳染ノ景況一ナラス例ヘハ虎列刺病毒ノ如キハ專ラ患者ノ吐瀉物中ニ舍リテ

吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染シ發疹室扶私病毒ノ如キハ患者ノ身體及ヒ之ニ接觸セルモノ其他居室内ノ空氣ヨリ傳染シ痘瘡病毒ノ如キハ患者ノ身體、居室内ノ空氣ヨリ又ハ痘癩、痘漿及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染ス故ニ消毒法ノ實施ニ從事スル者ハ各病ノ病性ヲ知悉シ此心得書ニ據リテ火力、蒸熱、藥劑等總テ消毒ノ効力ヲ有スルモノ、効用、用法ヲ領得シ決シテ疎漏ノコトナカラノコトヲ要ス

第一 火力

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死體及ヒ病毒ニ汚染スルコト甚クシテ貴重ナラサル品ハ成ルヘク燒却スヘシ

第二 蒸熱 附煮沸

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ蒸熱ニ逢フトキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ成ルヘク蒸熱消毒器中ニ入レテ蒸熱ノ内部ニ透徹シ易キ様適宜ニ之ヲ排列シ通

常衣服ノ類ニ於テハ三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度以上ノ熱氣ヲ周テク通シテ消毒スヘシ

熱汽消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒郷僻地ニ設クルヲ得サルモノアリト雖モ要スルニ攝氏百度以上ノ熱汽ヲ以テ消毒スヘキ物品ヲ涵蒸スルヲ得ハ足レルカ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同様ノ目的ヲ達センコトモ亦難キニアラス今其一法ヲ舉クレハ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔ヲ穿テ蒸氣ヲ導ク處ト爲シ之ヲ釜上ニ裝附シテ蒸氣ヲ通セシメ而シテ其蓋ニ一小孔ヲ穿テ寒暖計ヲ挿入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ此裝置タル甚タ簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキカ故ニ如何ナル地方ニモ之ヲ設クルヲ得ヘク而シテ消毒ノ目的ハ十分ニ之ヲ達シ得ルモノナリトス

又熱湯中ニ煮沸スルモ濕熱消毒法ト其理ヲ同シフス故ニ市町村ニ於テハ煮沸ノ用ニ供スヘキ大釜ヲ備フルトキハ十分消毒ノ目的ヲ達シ得ヘシ但煮沸ハ三十分時間以上ヲ持續セサレハ消毒ノ効全カラストス

第三 藥劑

甲 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸 五分  
水 九十五分

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚タ廣シト雖モ其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ增多スルノ憂アリ故ニ成ルヘク他ノ消毒藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノヘハ石灰乳ヲ用フレハ光澤ヲ損シ且 其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ缺乏セル場合ニノミ汞水ヲ用フレハ危險ノ虞アル等 使用スヘシ本品ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レモ場合ニ依リ粗製石炭酸ヲ以テ之ヲ製シ本品ニ代用スルモ可ナリ但粗製石炭酸水ハ消毒後斑點ヲ遺スノ虞アルヲ以テ構造精緻ノ家屋、貴重ノ物品等ノ消毒ニハ使用スヘラス

- 一 本品ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ラノコトヲ要ス  
ヘシ
- 二 本品ヲ以テ器具、室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ後淨水ヲ以テ更ニ拭淨ス

ヘシ

三 本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨スヘシ  
本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ水ヲ  
注キ全量二百分ニ至ラシムヘシ温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ但衣類等ニ使用ス  
ルヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ更ニ鹽酸若クハ酒石酸四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著  
シトス

乙 昇汞水(千倍) 昇汞一分、鹽酸五分  
水 九百九十四分

昇汞水ハ價廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キ  
ノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カンカ爲メ本品百分ニ硫酸  
銅一分ヲ加ヘテ藍色ト爲スカ又ハ昇汞ノ効ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ  
易カラシムルヲ要ス

又本品ハ飲食器、玩具及ヒ飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラス金屬若クハ

糞便中ノ成分ニ逢フトキハ分解又ハ其凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬製器  
、糞便及ヒ吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス又金屬製器ニ貯フヘカラス

本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ必ス淨水ヲ以  
テ數回洗滌スヘシ

甲乙兩種ノ消毒藥ニハ「劇シキ藥ナリ飲むベカラズ」ト票記スヘシ

丙 生石灰(十倍) 生石灰一分  
石灰乳(十倍) 水 九分

生石灰及ヒ石灰乳ハ虎列刺、腸窒扶私等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アルモノナレハ吐瀉  
物、瀉下物、下水等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ良シトス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物、瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク攪拌スヘシ

生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノヲ用  
フヘシ又石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石  
灰乳ハ成ルヘク用ニ臨テ之ヲ製シ使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルヲ要ス

丁 格魯兒石灰水即チ鹽化(廿倍)水 格魯兒石灰五分  
九十五分

格魯兒石灰水ハ便所、下水、芥留、床、床下及ヒ土間等ノ消毒ニ用フ

本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

戊 硫酸若クハ粗製硫酸 同量ノ水ニ溶  
解シタルモノ

硫酸若クハ粗製硫酸ハ石灰乳、石炭酸水等ノ代用品トシテ糞池、下水等ノ消毒ニ用アル  
ヲ得ヘシ但本品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フノ際能ク注意スヘシ

本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト同量ノ本品ヲ注テ攪拌スヘシ 本品ヲ糞池ニ入ル  
溢液スルノ恐アルヲ以テ其糞便多量ナル場合ニハ其幾分ヲ他器ニ分チテ各別ニ消毒ス  
ルヲ可トシ又本品ハ漆喰、敲金屬製器ヲ損傷スルノ恐アルヲ以テ糞池ノ周邊漆喰、敲ナル  
トキハ消毒ノ際特ニ注意シ  
又金屬製器ニ容ルヘカラス

本品ヲ製スルニハ五十分ノ水ヲ取り絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸若ク  
ハ粗製硫酸五十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス

消毒ノ方法

第一 患者

傳染病者治癒シタルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直ニ浴  
ヲ取ラシムヘシ

第二 死體

傳染病者ノ死體ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ歛ムヘシ但成ルヘク火葬スルヲ良  
シトス

第三 看病人其他病家ノ家人等

看病人其他病毒ニ汚染シタル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ従事シタル吏員、人夫等ハ手  
足ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但看病人、吏員、人夫等ハ豫メ爪ヲ剪リ其間ニ  
汚垢ナキ様注意シ置クヘシ

第四 患者、死體等運搬器

患者、死體等ヲ運搬シタル籠籠、釣臺、戸板ハ使用ノ都度周チク昇汞水又ハ石炭酸水ヲ

灌クヘシ

第五 便所、芥留、下水等

虎列刺患者ノ吐瀉物、腸室扶私、赤痢患者ノ瀉下物ノ入りタル便所ノ糞池、大糞池、肥料留等ニハ少ナクモ糞便ノ最十分一ノ石灰乳若クハ格魯兒石灰水此用量ハ最低度ヲ示シタルモノナレハ多キニヨリ妨ナシヲ灌キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周テ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ但此消毒法ヲ施行シタル糞池、肥料留等ノ糞便ニシテ爾後新タニ患者ノ吐瀉物又ハ瀉下物ヲ混入セサルトキハ一週間ノ後普通ノ糞便同様肥料ニ供スルモ妨ケナク又其便所ハ消毒後之ニ通フモ妨ナシ

虎列刺患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ吐瀉物ト共ニ表面ノ土ヲ掘リ取りテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ルヘクハ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥留ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ

撒布シタル後塵芥ヲ盡ク取除キテ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水溝ニハ生石灰、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌テ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ灌テ疏通セシムヘシ

第六 衣服、器具、疊、敷物等

一傳染病者ノ着用セル衣服及ヒ患者ノ用ニ供シタル臥具、蚊帳、飲食器、藥用器、玩具其他患者ノ室内ニ在リタル諸器具ノ類

一看病人其他病者ニ汚染スル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事セル吏員、人夫等ノ着用セル衣服及ヒ手巾、足袋、靴、草履等

一患者ノ居室内ニ用ヒタル疊、蓆、敷物等ニシテ消毒ヲ必要ト認メタルモノ

右ノ内衣服、臥具、蚊帳等總テ織物、綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

(一) 汽熱消毒スヘキ物品ニ應シ攝氏百度以上ノ熱瀝ヲ三十分乃至一時間以上周テク通セシム



- (一) 煮沸 熱湯中ニ三十分 時間以上煮沸ス
- (二) 石炭酸水浸漬 石炭酸水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス
- (三) 昇汞水浸漬 昇汞水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス
- (四) 陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

- (一) 石炭酸水拭淨 石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス
  - (二) 乾布拭淨 屢々乾布ヲ交換シテ内外面ヲ能ク拭擦シ其乾布ハ速ニ焼却ス
- 其他ハ濕燒、煮沸、石炭酸水、昇汞水等ノ浸漬ヲ用フ但昇汞水ハ金屬製品ニ用フヘカラス

木製器ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但汚染甚シク且高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊、蓆、絨緞、段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル後日光大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但汚染甚シキモノ 例之ハ患者ノ吐瀉物、嚙下物ノ浸潤セルモノ 虎列刺、發疹室扶私、痘瘡患者ノ病室内ニ敷キアリタルモノ、類ハ燒却スヘシ

第七 患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室内ノ疊、敷物ヲ揚ケ 此疊、敷物ノ頂ニ據 室内各部床及ヒ床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ 床及ヒ床下ニ吐瀉物滲漏セルト注スヘシ 掃除後昇汞水又ハ石炭酸水ヲ以テ室内各部ヲ叮嚀ニ淨乳スヘシ

右ノ消毒法ヲ了レル後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ヲ全ク乾燥スル迄家人ノ起臥ヲ爲サシメサルヲ可トス但雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

第八 汽車

虎列刺患者アリタル瀛車ノ車室ハ先ツ吐瀉物ヲシテ汎ク散漫セシメサル爲メ石灰、石炭酸屑、灰、砂、鋸屑等ヲ撒布シ之ヲ取り除キテ燒却シ車内ノ消毒ハ前項患者居室ノ消毒法ニ準スヘシ但車室ニ附屬スル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九 船舶

傳染病者アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但其船舶ハ消毒法ヲ行フニ先チ人家及ヒ他ノ船舶ニ隔タリタル所ニ廻航セシムルヲ要ス

- 一 患者アリタル船室ハ先ツ室内ノ臥具、戸帳、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依リテ消毒シ室内各部ヲ掃除シ次ニ昇来水又ハ石炭酸水ヲ周チク室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叮嚀ニ洗淨シ爲シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客ヲ入ルヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ
- 一 患者アリタル室ノ外ト雖モ病毒汚染ノ疑アル場所及ヒ不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗淨スヘシ

虎列刺ニ於テハ前二項ノ外尙ホ左ノ方法ヲ行フヘシ

- 一 患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分ニ洗滌スヘシ

一 吐瀉物滲漏ノ處アルトキハ消毒藥ヲ灌キ船底ニ滯留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ

一 船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗淨スヘシ

○三重縣訓令甲第百廿二號 二十三年十二月廿六日 郡市役所 町村役場  
千葉縣望陀郡松丘村役場本月十四日火災ニ罹リ書類焼失ニ付同日以前全役場ニ對スル照會事件ニシテ應答未濟ノ分ハ此際更ニ照會スヘシ

○三重縣訓令甲第百廿三號 二十三年十二月廿六日 間稅分署  
直稅分署及間稅分署處務細則中第七條間稅分署第四項左ノ通改正ス

四 印紙類賣捌願ノ許否ニ關スル事

○三重縣訓令甲第百廿四號 二十三年十二月廿六日 間稅分署  
本年十一月大藏省令第三十四號印紙類賣下賣捌規則施行細則第一條ニ依リ印紙類賣捌人員左ノ通相定メ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

但現在ノ人員左記ノ數ニ超過スルモノハ施行細則第八條ノ繼續賣捌人ノ内滿期若クハ事故ニ依リ廢業スル迄ハ從前ノ通

桑名郡	二十二	員辨郡	二十	三重朝明郡	三十五
奄藝河曲郡	二十	鈴鹿郡	十九	津市安濃郡	十八
一志郡	二十六	飯高飯野郡	十八	多氣郡	十七
度會郡	三十	阿拜山田郡	十五	名張伊賀郡	十六
苔志英虞郡	十六	北牟婁郡	十一	南牟婁郡	十七

○自明治廿三年一月三至十二月三 三重縣告示之部

○三重縣告示第一號 二十三年一月十日

管下伊勢國飯高郡内新道左記ノ通飯定縣道和歌山街道ニ組換ヘ之ヲ本道ト定ム

一 飯高郡花岡村ヨリ全郡粥見村ニ至ル間ノ新道

○三重縣告示第二號 二十三年一月十日

官林接續民有地境界標建設或ハ圍ヒ取設ク若クハ土石採掘其他木竹栽植及伐採等凡ソ境界ニ接シ事業ヲ爲ソトスルモノハ着手前其旨所轄小林區署又ハ派出所(小林區署又ハ派出所ナキ場所ハ大坂大林區署)へ届出ヘキ旨大坂大林區署長ヨリ通知越シタリ

○三重縣告示第三號 二十三年一月十四日

一鳥獸獵免狀 職獵第九四二九號 一枚

明治二十二年十二月二十四日度會郡中島村大字大江三十七番屋敷平民小田和助へ下付右免狀客年十二月二十二日遺失ノ旨届出候條所在見聞ノ者ハ最寄警察署又ハ分署ニ届出

ツヘシ其届出ヲ受ケタルノ署ハ直チニ警察本部保安課ニ通報スヘシ

○三重縣告示第四號 二十三年一月十四日

一鳥獸獵免狀 職獵第八四一一號 一枚

明治廿二年十二月四日朝明郡川越村大字龜崎新田六十二番屋敷平民城田平吉へ下付

右免狀本年一月六日流失ノ旨届出候條所在見聞ノ者ハ最寄警察署又ハ分署へ届出ツヘシ

其届出ヲ受ケタルノ署ハ直チニ警察本部保安課ニ通報スヘシ

○三重縣告示第五號 二十三年一月十四日

今般左ノ工事計畫準備ノ爲メ起業地ニ立入り測量スル事ヲ認可ス

起業者 參宮鐵道會社創立委員

工事種類 鐵道

起業地 津市ヨリ安濃郡新町神戸村藤水村一志郡久居町本村高茶屋村雲出村桃園村

小野江村鶴村豐田村天白村中原村米ノ庄村阿阪村松ヶ崎村飯高郡伊勢寺村

松江村湊村ヲ經テ松坂町ニ至リ夫ヨリ同郡神戸村鈴止村飯野郡楠田村朝見村漕代村多氣郡齋宮村上御絲村明星村度會郡北濱村豐濱村ヲ經テ小俣村ニ達シ及飯高郡花岡村飯野郡神山村射和村多氣郡西外城田村相可村度會郡東外城田村有田村城田村ヲ經テ小俣村田丸町下外城田村ニ達ス (本年告示第一號ヲ以テ圈點ノ分追加)

○三重縣告示第六號 二十三年一月十七日

伊勢志摩全國南北牟婁郡

明治二十三年第三師管豫備後備兵簡閱點呼施行時期二月十日ヨリ三月盡日ト迄指定シタル旨師團長ヨリ通知アリ

○三重縣告示第七號 二十三年一月十七日

一鳥獸獵免狀遺失ノ件(零)

○三重縣告示第八號 二十三年一月二十四日

明治二十二年度及二十三年度土木費町村土木補助費追加同年度收入追加同追課方法備荒

儲蓄金借入ノ件其他土木事業ニ關スル寄附物件等議定ノ爲本月二十七日ヨリ臨時縣會ヲ開設ス

○三重縣告示第九號 二十三年一月二十五日

本月二十四日第八號ヲ以テ臨時縣會開設ノ義及告示置候處尙該會ヲシテ左ノ事項ヲ議定セシム

一明治二十二年度豫算費追加豫算

○三重縣告示第十號 二十三年一月二十八日

海軍志願兵志願ノ者ハ明治二十二年勅令第六十八號海軍志願兵徵募規則及同年海軍省令第五號同兵徵募細則ニ依リ來ル二月十二日マテニ願書ヲ郡市役所ニ差出シ郡市長ハ同細則第三條ニ依リ之ヲ調査シ同月二十二日マテニ本廳ヘ進達スヘシ

○三重縣告示第十一號 二十三年一月三十一日

本年(一月)告示第五號中起業地ノ項ヘ左ノ町村ヲ追加ス

一志郡 久居町 本町

度會郡 田丸町 下外城田村

○三重縣告示第十二號 二十三年二月三日

本年三月三十一日限り退任スヘキ縣會議員左記ノ通ニ付右改撰ノ爲同月七日該郡ニ於テ各撰舉會ヲ開設ス但撰舉開會ハ午前第八時投票函閉鎖ハ午后第三時トス

桑名郡 西田石陵

朝明郡 下田享三 天春文衛

奄藝郡 田端清七郎

河曲郡 矢田彌四郎

安濃郡 海野謙次郎 伊東祐賢

一志郡 川尻政央

飯高郡 小野高秋 佐野直市

飯野郡	野呂定吉	西野利市郎
多氣郡	乾覺郎	村井恒藏
度會郡	北川矩一	
阿拜郡	森川六右衛門	
山田郡	大森牛之助	立入奇一
名張郡	深山聳岨	深山始三郎
伊賀郡	中井寅次郎	
荅志郡	押田素	
英虞郡	刑部千太郎	
北牟婁郡	栗原實也	
南牟婁郡	竹原撲一	

○三重縣告示第十三號 二十三年二月三日

去一月二十七日ヨリ開設セシ臨時縣會昨二日閉場更ニ該會ノ決議ニ係ル明治二十二年度及同二十三年度土木費土木補助費追加同二十二年度豫備費追加并同二十二年度二十三年度收入追加同二十三年度收入追課方法備荒儲蓄金借入ノ件等再議及二十二年度縣會議諸費追加豫算同年度收入議案議定ノ爲本日ヨリ更ニ臨時縣會ヲ開設ス

○三重縣告示第十四號 二十三年二月四日

衆議院議員選舉法第三條ニ依リ各撰舉區ニ於テ撰舉長ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一區撰舉長	一志郡長	松岡利彌
第二區撰舉長	三重朝明郡長	酒井禮一
第三區撰舉長	桑名郡長	山本如水
第四區撰舉長	飯高飯野郡長	鈴木隆
第五區撰舉長	度會郡長	滿岡勇之助
第六區撰舉長	阿拜山田郡長	入尾信夫

○三重縣告示第十五號 二十三年二月四日  
明治二十三年(三月)第二十號告示租稅檢査區畫派出所位置本月十日ヨリ左ノ通改正ス(改正ニ付畧ス)

○三重縣告示第十六號 二十三年二月四日  
本年(一月)當縣告示第十號海軍志願兵願書差出期限ヲ三月十二日同郡市長ヨリ本廳へ進達期限ヲ同月二十二日ト改定ス

○三重縣告示第十七號 二十三年二月七日  
明治二十二年法律第三十號地租條例第十條第二項地目變換ノ土地ハ同年大藏省令第十九號地租條例施行細則第九條ニ依リ左ノ如ク檢査區域ヲ定ム

地目變換檢査區域

桑名郡  
員辨郡

第一區	朝明郡	三重郡	鈴鹿郡	河曲郡	奄藝郡	安濃郡	津市	一志郡	飯高郡	飯野郡	多氣郡	度會郡
第二區												
第三區												

第四區  
 荅志郡  
 英虞郡  
 北牟婁郡  
 南牟婁郡  
 阿拜郡  
 山田郡

第五區  
 伊賀郡  
 名張郡

○三重縣告示第十八號 二十三年二月七日

多氣郡徵募區徵兵參事員小林猛次郎死亡シ津市同上富岡太郎兵衛辭職セシニ依リ右補欠ノ爲メ來ル二月十一日該郡市ニ於テ各撰學會ヲ開設ス但撰學會ハ午前八時投票函閉鎖午後第三時トス

○三重縣告示第十九號 二十三年二月七日

明治二十二年十二月勅令第四百四十四號第四百四十五號ヲ以テ豫備後備下士兵卒服役條例及歸休兵條例被相定候ニ付右條例中明條ナキモノ、内左ノ通規定シタル旨津大隊區司令官ヨリ通知アリタリ

一豫備後備下士兵卒ニシテ止ムヲ得サル事故アリ(父母ノ疾病危篤及父母死亡)勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱点呼免除ヲ願ハント欲スルトキハ演習召集ニ在テハ集合期日ノ前日簡閱点呼召集ハ其當日迄ニ本願書到達ノ日積ヲ以テ差出ス可シ

一歸休兵ニシテ止ムヲ得サル事故アリ(前項ニ同シ)歸營シ難キトキハ父母ノ疾病ニ在テハ醫師証明書父母死亡后埋葬ヲ了ラサル間ハ市町村長証明書其他ノ事故ハ警察官ノ証明書ヲ添付ス可シ

一豫備後備下士兵卒ニシテ監視區外ニ寄留シ其地ニ於テ簡閱点呼ヲ受ケント欲スルトキハ其願書ニ期限(年月日ヨリ年月日迄等)ヲ定メ尙行先キヲ詳記スヘシ但監視區内ニ寄留スル片ハ



願フ要セス其地ニ於テ召集ニ應スルヲ得ス

一豫備後備下士兵卒ノ結婚願ハ自今大隊區司令官ニ出願スヘシ

○三重縣告示第二十號 二十三年二月十二日

本月三日ヨリ開會セシ臨時縣會去ル九日議事結了即日閉會ス

○三重縣告示第二十一號 二十三年二月十二日 伊勢國志摩全國南北牟婁郡

明治二十三年第三師管豫備後備兵簡閱點呼本月十日ヨリ施行ノ管ニ候處都合筋有之見合ノ義師團長ヨリ通知アリ

○三重縣告示第二十二號 二十三年二月十二日

官林巡邏提灯徽章左記離形ノ通り相定メ候旨大坂大林區署ヨリ通知越セリ「提灯徽章畧」

○三重縣告示第二十三號 二十三年二月十四日

昨明治二十二年十二月告示第百六號北牟婁郡撰舉縣會議員補欠撰舉會ニ於テ左記ノ者當選セリ  
北牟婁郡 上野 十太夫

○三重縣告示第二十四號 二十三年二月二十一日

伊賀全國

明治二十三年度近衛充員召集ニ當リ其集合スヘキ場所左ノ通定メタル旨師團長ヨリ通知アリ

第七旅管

在 京都市 京都下京區建仁寺町通建仁寺

第八旅管 兵庫縣神戸市下山手通七丁目

在 神戸市 神戸大隊區司令部

善福寺(廿四年告示第三十一號)ヲ以テ點ノ分追加

○三重縣告示第二十五號 二十三年二月二十一日

伊勢志摩全國南北牟婁郡

明治二十三年度 自廿三年五月一日 近衛充員召集ニ當リ第三師團内近衛兵集合所左ノ通り定メタル旨該師團長ヨリ通知アリタリ

第五旅管 名古屋津兩大隊區 靜岡城內 沼津城內

第六旅管 各大隊區 名古屋城內

- 三重縣告示第二十六號 二十三年二月二十一日  
(奄藝河曲)郡徵兵參事員梶川升死亡セシニ依リ右補欠ノ爲メ來ル三月二十五日該郡ニ於テ撰舉會ヲ開設ス但撰舉開會ハ午前八時投票函閉鎖ハ午後第三時トス
- 三重縣告示第二十七號 二十三年二月二十一日  
明治二十二年度教育費追加豫算同收入並同年度戸長以下給料旅費豫算更正議定ノ爲本月廿二日常置委員會ヲ開ク
- 三重縣告示第二十八號 二十三年二月二十五日  
本年第一期安濃津重罪裁判所本月二十三日開廳ノ旨同判事長ヨリ通知越セリ
- 三重縣告示第二十九號 二十三年二月二十五日  
明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十八條監視員巡視ノ際ハ左雜形ノ証票ヲ携帯セシム

紙製曲尺二寸二分

表 藥品監視之証

字六斗一

裏

三重縣廳



- 三重縣告示第三十號 二十三年二月二十八日  
明治二十三年八月海軍兵學校生徒五十名召募相成候條明治三年八月一日以後同七年八月一日以前出生ニシテ志願ノ者ハ來ル四月二十日迄ニ右願書ヲ本廳ニ差出スヘシ但志願者心得並ニ檢査格例ハ本年二月六日官報ニ付閱覽スヘシ
- 三重縣告示第三十一號 二十三年二月二十八日  
國縣道伏込ミアル樋管ニシテ道路鑿工事ニ係ルモノ及ヒ本縣土木費支辨法第三等川以上ニ關スル水車興廢及井堰並漁籾ノ新設願ハ所屬郡市役所及ヒ土木區事務所ヲ經由シ差出スヘシ
- 三重縣告示第三十二號 二十三年三月四日

三重縣茶業組合聯合會議所規約別紙ノ通り認可ス  
(別紙) 三重縣茶業組合聯合會議所規約

第一章 聯合會議所

- 第一條 三重縣茶業組合聯合會議所ヲ津市ニ沿ク
- 第二條 聯合會議所ニ於テ處理スヘキ事項左ノ如シ
- 第一項 中央會議所及各府縣聯合會議所へ質問應答ヲ爲シ茶業上ノ利害得失ヲ查シテ各組長へ通報スルヲ
- 第二項 毎年三月中第廿三條ノ印証ヲ調製シテ各組長へ配付スルヲ
- 第三項 聯合會議員及組長委員ノ名簿ヲ調製スルヲ
- 第四項 通常臨時ノ會議ニ先チ議案ヲ調製シ其準備ヲ爲シ期日ヲ各議員及組長へ通報スルヲ
- 第五項 前々年度ノ收支明細書ヲ作り聯合會ニ報告スルヲ

第六項 第十五條ニ依リ聯合會議員ニ増減ヲ生シタルトキハ其組合へ通報スルヲ

第七項 前各項ノ外中央會議ノ決議ニヨリ處理スヘキ事項

第三條 聯合會議所ニ事務員一名書記一名ヲ置キ諸般ノ事務ヲ取扱ハシム

第四條 事務員ハ縣下茶業組合員中該業ニ經歷アル者ヲ撰舉スヘシ

第五條 書記ハ事務員之ヲ任免ス

第六條 事務員ノ任期ハ二々年トシ滿期再撰スルヲ得

但任期中ト雖モ不正ノ所爲アルトキハ之ヲ改撰ス

第七條 事務員事務上必要ト認ムルトキハ各地ニ出張又ハ巡回スルコトアルヘシ

第八條 會議所ノ事務繁忙ナルトキハ臨時雇員ヲ爲スヲ得

第九條 事務員ニハ相當ノ手當金及旅費ヲ給ス其金額ハ會議ニ於テ之ヲ定ム

第十條 會議所ニ於テ用ユル印章左ノ如シ

方	三重縣茶業組合聯合會議所
寸	ノ印

字體 諫書

方	三重縣茶業組合聯合會議所
六	分
分	事務員印

字體 同上

第二章 聯合會議

第十一條 通常會ハ毎年一月之ヲ開キ臨時會ハ事務員ニ於テ開會ヲ要スルト認ムルトキ又ハ議員三分ノ一以上ノ請求アルトキハ之ヲ開クコトヲ得

但時宜ニ依リ會期ヲ變更スルコトアルヘシ

第十二條 聯合會議ノ議案ハ事務員之ヲ發ス

第十三條 通常會ニ於テ議スヘキ事項左ノ如シ

但臨時會ハ特ニ其會議ヲ要スル事件ニ限ル

第一項 聯合會議所經費ノ收支豫算

第二項 聯合會議所規約ニ關スルコト

第三項 聯合會議所事務員撰定ノコト

第四項 前々年度ニ係ル聯合會議所ノ決算報告ヲ受ケ之ヲ審査スルコト

第五項 其他組合ニ關スルコト及議員ヨリ提出セン事件

第十四條 會議ノ日數ハ通常會ハ十日以内臨時會ハ五日以内トス

但時宜ニヨリ日數ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第十五條 聯合會ノ議員ハ各組合ヨリ左ノ割合ニ應シ之ヲ撰出ス

一 製茶六万貫以上 三人

一同 三万貫以上 二人

一同 三万貫未満 一人

一 四日市組合ハ製茶賣買高三十万貫未満一人以上二人

第十六條 聯合會ノ議員タルコトヲ得ヘキモノハ滿廿五歳以上ノ男子ニシテ組合内ニ住

居シニタ年以上茶業ニ従事セシモノニ限ル

第十七條 聯合會議員ノ任期ハ滿ニタ年トシ滿期再撰スルヲ得

第十八條 聯合會議員ハ旅費日當ヲ給ス其金額ハ會議ニ於テ之ヲ定ム

第三章 經費

第十九條 聯合會議所ニ要スル經費ノ目ハ左ノ如シ

- 一 事務員手當金及旅費
- 一 書記及小使給
- 一 臨時雇給
- 一 備品借家料及筆紙墨薪炭油等ノ諸費
- 一 電信郵便脚夫賃其他報告費
- 一 聯合會議ニ關スル諸費
- 一 印刷費

一 中央會議員報酬金

一 前各項ノ外聯合會議ニ於テ必要ト認メタル諸費

一 豫備費

第二十條 前條ノ經費ハ各組合前々年度ノ印証使用高ヲ以テ定率トシ各組合ニ賦課ス

第二十一條 各組合ノ負擔額ハ左ノ期限迄ニ聯合會議所ヘ送付スルモノトス

一 六分通 五月三十日

一 貳分通 七月二十日

一 貳分通 九月二十日

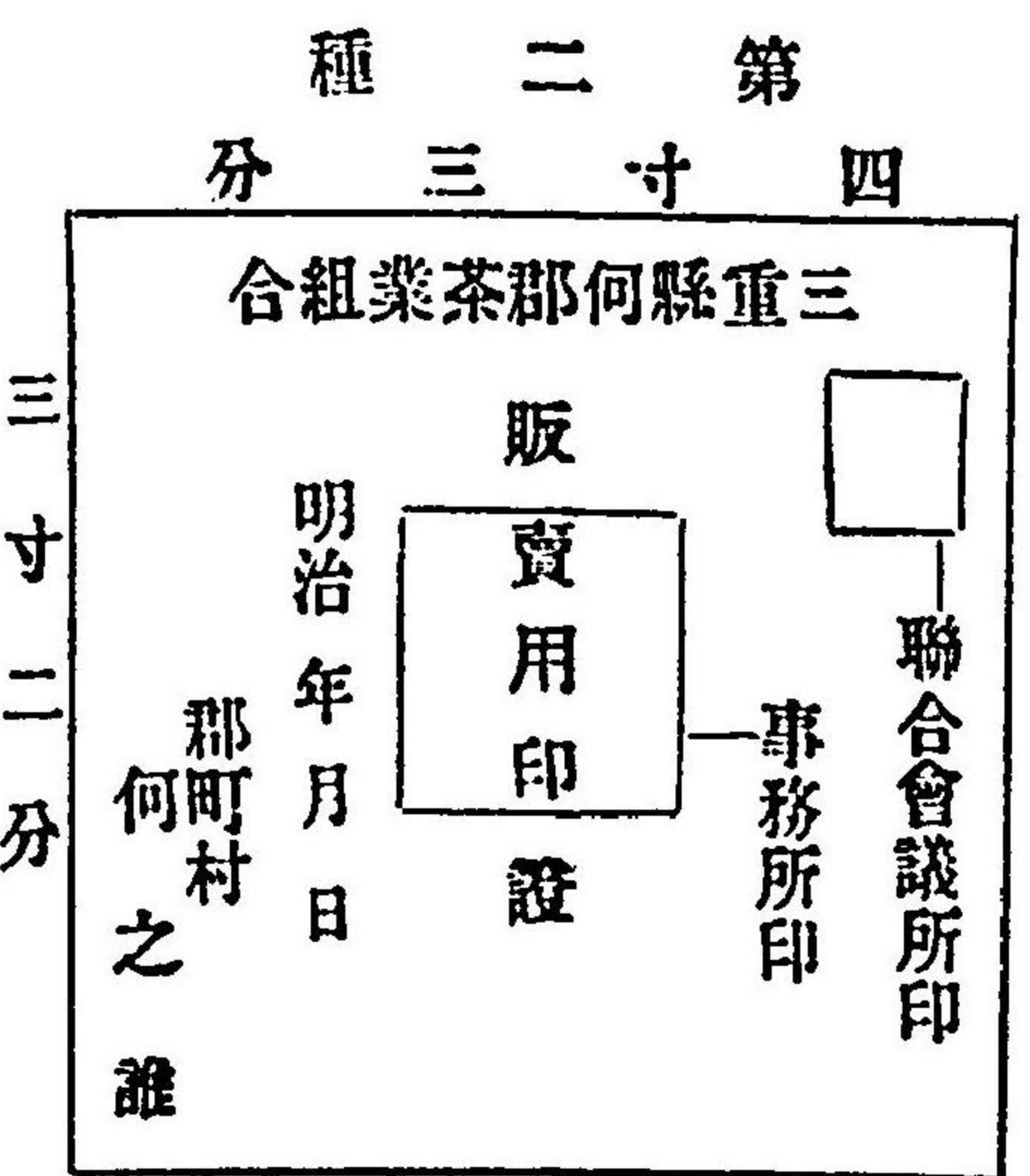
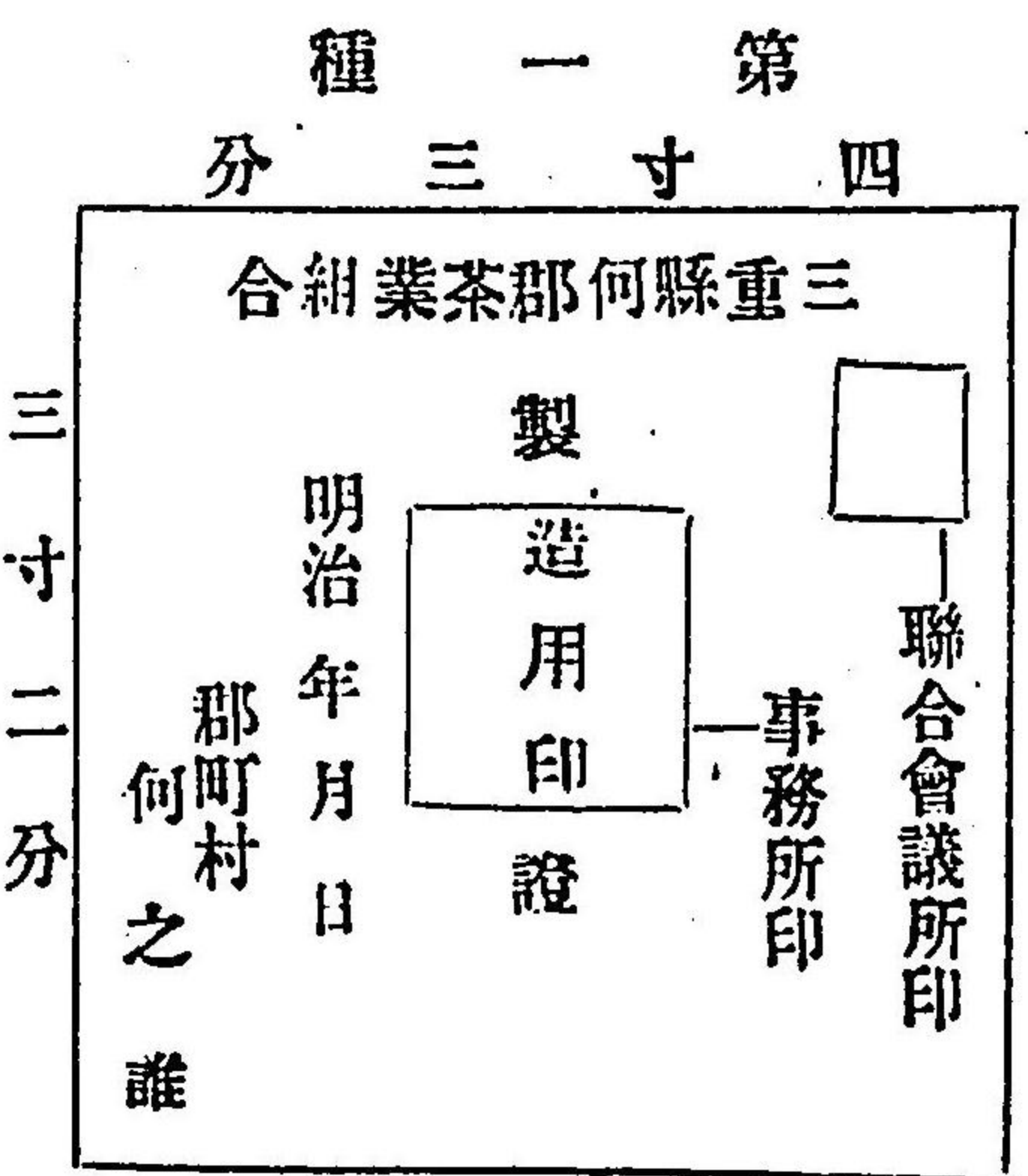
第二十二條 聯合會議所ノ會計年度ハ三月ニ起リ翌年二月ニ終ル

第四章 組合ニ關スル事務

第二十三條 各組合員ハ左ノ雛形ノ如キ印証ヲ荷物ノ見易キ處ニ貼付スルモノトス

青色 花 粹

赤色 花 粹



第二十四條 前條ノ印証ハ荷物壹個毎ニ貼付スルモノトシ其貼付法ハ左ノ如シ

但印証ヲ貼付スル最少ノ斤量ハ各組合ニ於テ之ヲ定ム

第一項 製造人ハ製茶ヲ販賣又ハ運搬スル際ハ必ス第一種ノ印証ヲ貼用スヘシ

第二項 茶商人ハ製茶ヲ買受テ運搬スルトキ又ハ荷物ヲ造リ換ヘ出荷スル毎ニ第二種

ノ印証ヲ其荷主ニ於テ貼用スヘシ

但外國ヘ直輸スル荷物ハ此限ニアラス

第三項 印証面ニ年月日及住所姓名ヲ記入調印スヘシ

第四項 印証ヲ貼用シタルトキハ印証下荷物ニ掛ケ姓名ノ下ニ押捺シタル印ヲ以テ割印スヘシ

第五項 印証ハ再用スルコトヲ得ス

第六項 印証ハ其荷主組合ノ印証ニアラサレハ使用スヘカラス

第七項 甲組合ノ茶商人乙組合地ニ至リ携帶ノ印証ニ不足ヲ生セントキハ乙組合ノ印証ヲ貼付スルコトヲ得

但本項ノ場合ニ於テハ印証面ニ其事由ヲ記シ乙組合役員ノ認印ヲ受クヘシ

第二十五條 賣買ニ關セサル製茶ト雖モ大字以外ニ運搬スルトキハ第二十四條ノ各項ニ據リ印証ヲ貼付スヘシ

第二十六條 第二十三條ノ印證料ハ壹枚ニ付金壹錢トス

但南北牟婁二組合ハ此限ニアラス

第二十七條 各組合ニ於テハ毎年製茶產額茶畑反別茶業者人員及前年度ノ印證使用高ヲ取調十二月十日限聯合會議所ヘ報告スルモノトス

但四日市組合ニ於テハ製茶賣買取扱數量ヲ別ニ取調報告スヘシ

第二十八條 聯合會議所事務員ニ於テ必要ト認ムルカ又ハ組長二分ノ一以上ノ請求アルトキハ事務打合ノ爲メ組合會議ヲ開クコトヲ得

但旅費日常ハ其組合ノ負擔トス

第二十九條 茶業上ニ關シ甲乙ノ組合中ニ紛議ヲ生シタルトキハ双方ノ組長協議ノ上仲裁スルモノトス

但時宜ニヨリ若干名ノ審査員ヲ指定センメ其意見ヲ聞クコトアルヘシ

第三十條 他府縣下ニ涉ル紛議ハ其組長ヨリ聯合會議所ニ申告シ同所ヨリ關係府縣聯合

會議所ヘ照會ヲ爲シ双方ノ組長協議ノ上仲裁ノ方法ヲ定ム

第三十一條 紛議ニ依リ生スル費用ハ總テ曲者ノ負擔トス曲直ノ別ナキ時ハ其費用ノ負擔額ヲ組長ニ於テ双方ヘ相示シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

但費用ハ即時之ヲ取立ツルモノトス

### 第五章 違約處分

第三十二條 第二十四條中ノ一項若シクハ數項又ハ第二十五條ニ違背シタル者ハ違約料トシテ荷物一個ニ付金五錢以上金貳拾五錢以下ヲ出サシム其賣買ニ係ルモノハ双方ヨリ取立ルモノトス

第三十三條 第二十六條ニ定メタル印證料ヲ増減受授シタル者ハ違約料トシテ一枚ニ付金拾錢宛ヲ出サシム

第三十四條 第三十五條ニ掲ケタル製茶ヲ發見セントキハ之ヲ燒棄テ該處分ニ要スル費用ハ荷主ノ負擔トス

第六章 雜則

第三十五條 左ニ掲クル製茶ハ製造及賣買スルコトヲ得ス  
一日乾製

但普通ノ番茶及紅茶ハ此限ニアラス

- 一 他葉ヲ用ヒテ類似ノ品ヲ製シ之ヲ良茶ニ混淆セシモノ
- 一 製造中土砂等ヲ混入シ故ヲニ秤量ヲ増加セシモノ
- 一 潮入又ハ雨濕等ニテ腐敗ニ至リシ品ヲ再乾擬造シ又ハ之ヲ良茶ニ混淆セシモノ
- 一 硬強ナル粗葉ニ粘質物ヲ用ヒ又ハ種々ノ手段ヲ施シ腐敗セシノ良茶ニ擬造シ若シクハ混淆セシモノ
- 一 製造中綠礬又ハ鐵氣ノモノ及油煙灰汁ノ類ヲ加ヘ黑色ヲ與ヘテ良茶ニ擬造シ若シクハ混淆セシモノ
- 一 既製ノ茶ニ黑鉛等ヲ以テ着色シ良茶ニ擬造シ若シクハ混淆セシモノ

右ノ外之ニ類スル擬造并ニ精製

第三十六條 甲組員乙組合地ニ到リ製造所又ハ店舗ヲ設ケ茶業ヲ營ムトキハ其組合ヘ  
同盟スヘシ

第三十七條 甲組員乙組合地ニ至リ第二十四條ニ違背シタルモノアルトキハ其發見地  
ノ組長ニ於テ第三十二條ニ據リ之カ處分ヲ爲シ違約者ノ組合事務所又ハ聯合會議所ヘ  
處分濟ノ報告ヲ爲スモノトス

但本條ノ場合ニ於テ其茶荷物無証印ナルカ又ハ印証ヲ再用シタルトキハ處分地組合  
ノ印証ヲ貼付セシメ印証面ニ其事由ヲ明記シ該組合役員ニ於テ檢印スヘシ

○三重縣告示第三十三號 二十三年三月七日  
漁業取締上ノ義別記發令候旨兵庫縣ヨリ通知越セリ

兵庫縣令第二十號

明治二十一年縣令第四百四十四號漁業組合準則ニヨリ設置シタル組合ノ漁場區域内ニ於



テ從來ノ慣行ニ依リ入會漁業(水産動物採補ヲ併稱ス)ヲ爲スモノハ縣ノ内外人ヲ問ハス其他組合規約ニ從フヘシ

○三重縣告示第三十四號 廿三年三月十八日

官林ニ係ル諸願伺書ハ是迄正副二通爲差出來候處自今副本相廢止候旨大阪大林區署長ヨリ通知越セリ

○三重縣告示第三十五號 二十三年三月十七日

本年第二期安濃津始審裁判所管内各治安裁判所出張裁判日割左記ノ通り相定メ候旨同裁判所長ヨリ通知越セリ

第二期出張裁判開廷日割(略ス)

○三重縣告示第三十六號 二十三年三月十八日

寄附ニ係ル衛生資金處分方議定ノ爲本月十八日常置委員會ヲ開ク

○三重縣告示第三十七號 二十三年三月二十日

本年二月第十二號ヲ以テ縣會議員改撰ノ義告示及置候處今般左ノ通當選セリ

桑名郡	渡部俊秀	朝明郡	下田亭三	天春文衛
奄藝郡	長谷川七左衛門	河曲郡	奥村要藏	
安濃郡	海野謙次郎	一志郡	森懋	平松宜棟
飯高郡	園部鹿之助	飯野郡	出口文兵衛	野呂幸之助
多氣郡	乾覺郎	度會郡	北川矩一	土屋源一郎
阿拜郡	森川六右衛門			乾逸太郎

山田郡	大森牛之助	福川兼三郎
名張郡	深山聳嘯	深山始三郎
伊賀郡	中井寅次郎	
荅志郡	田口半四郎	
英虞郡	刑部千太郎	
北牟婁郡	北村米助	
南牟婁郡	竹原撲一	

○三重縣告示第三十八號 二十三年三月二十日

本年告示第三十五號第二期安濃津始審裁判所管內各治安裁判所出張裁判日割中左記之通り更訂候旨同裁判所長ヨリ通知越セリ(署)

○三重縣告示第三十九號 二十三年三月二十日

本月十八日設開セン常置委員會ニ於テ左ノ事件ヲ決議セリ

一金百七拾貳圓八拾貳錢七厘

現金

一金七百拾五圓

公債証書額面

右ハ明治十二年コレヲ病大流行ノ際有志者ニ於テ死亡者ノ追吊法會ヲ執行シ其殘金三百六拾九圓七拾九錢壹厘ヲ官費地方稅外ノ衛生資金トシテ寄附シタキ旨有志總代ヨリ出願セシニ付之ヲ許可シ爾來縣廳ニ於テ利倍増殖シ客歲ニ至リ痘苗繼續費トシテ三ヶ年間支出ノ積リヲ以テ一ヶ年分即金五拾圓ヲ支出シ目下前額ノ金額トナレリ然ルニ客歲內務省令第壹號ノ旨モ有之地方稅經濟ニ移シテ管理スル方適當ナルヘキヲ信シ既ニ寄附者ノ承諾ヲ得タルニヨリ自今之ヲ地方稅經濟ニ移シ恩賜金ヨリ成立セル衛生資金ト併セ從前ノ通別途保管スルモノトス

○三重縣告示第四十號 二十三年三月二十五日

今般陸海軍聯合大演習御施行ニ付テハ各國公使出場ノ筈ニ付右演習中公使及接伴委員請別ノ爲メ鴉色ノ布片(幅三寸五分)ヲ左腕ニ纏付スル事ニ相定候旨陸軍大臣ヨリ達セラ

レタリ

○三重縣告示第四十一號 二十三年三月二十五日

本年(二月)告示第十八號多氣郡及ヒ津市徵兵參事員補欠撰舉會ニ於テ左記ノ者當撰セリ

多氣郡津田村 岡田吉次郎  
津市 伊藤尙藏

○三重縣告示第四十二號 二十三年三月二十八日 沿海郡市役所 町村役場

別記人相書ノ者漁業中難破ノ爲メ行衛不詳ノ旨和歌山縣ヨリ申越候條万一死体漂着候得者速ニ當處ヘ其旨届出ヘシ(人相書畧)

○三重縣告示第四十三號 二十三年三月二十八日

本縣々立病院ハ本月三十一日限り廢止シ醫學士飯田信訓同今井通ノ申請ヲ許可シ四月一日ヨリ更ニ私立病院トシテ繼續セシム

○三重縣告示第四十四號 二十三年三月二十八日

静岡縣古物商取締條例細則第十七條第十八條左ノ通改正候旨通知セリ

第十七條 商品ヲ他府縣下ニ運送セントスルトキハ發送三日前ニ物品ノ目錄ヲ作り發送

人受取人ノ住所氏名ヲ記入シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受テ物品ト共ト發送スヘシ

第十八條 他府縣下ノ物品ヲ受取タル片ハ發送地ノ所轄警察署又ハ分署ノ檢印アル目錄

ヲ到着三日以内ニ受取人所轄ノ重察署又ハ分署ヘ差出スヘシ

○三重縣告示第四十五號 二十三年三月二十八日

明治二十三年二月三重縣告示第十九號第四項ヲ廢止ス

(參照)明治二十三年二月三重縣告示第十九號第四項

一豫備後備下士兵卒服役條例中十四日以内ニ監視區長ニ届出ツル日數ハ監視區長ニ到達スル迄ノ日ヲ云フ何日以内ニアルモ亦同シ但歸休兵條例中何日以内トアルモ亦之ニ準ス

○三重縣告示第四十六號 二十三年三月二十八日

度會郡宇治山田町大字下中之郷町ニ設置セシ本縣第三土木區事務所ハ來ル四月一日左ノ場所へ移轉シ同所ニ於テ事務取扱ハシム

度會郡宇治山田町大字岩淵町十四番屋敷ノ四

○三重縣告示第四十七號 二十三年三月二十八日

今般左ノ工事計畫準備ノ爲メ起業地ニ立入り測量スル事ヲ認可ス

起業者 參宮鐵道會社創立委員 工事種類 鐵道 起業地 安濃郡荅世村安東村

○三重縣告示第四十八號 二十三年三月二十八日 伊勢志摩全國南北牟婁郡

第三師管下監視區及監視區長駐割地位置來ル四月ヨリ左ノ通改定セラレタリ

第	旅管區	監視區長	監視區域
	大隊區	駐割地	
名古屋	名古屋	名古屋市	愛知郡
津島	津島	海東郡	海西郡

第三師管下監視區域並監視區長駐割地一覽表

第	五 旅 管									
	津		豐 橋				靜 岡		金 澤	
津	津市	安濃郡	一志郡	飯高郡	飯野郡	多氣郡	津	津市	安濃郡	一志郡
四日市	三重郡	河曲郡	鈴鹿郡	朝明郡	桑名郡	員辨郡	菟碓郡	山田	度會郡	荅志郡
豐橋	度會郡	荅志郡	英虞郡	北牟婁郡	南牟婁郡	菟碓郡	豐橋	渥美郡	八名郡	寶飯郡
豐橋	額田郡	幡豆郡	東加茂郡	西加茂郡	南設樂郡	北設樂郡	豐橋	額田郡	幡豆郡	東加茂郡
濱松	濱名郡	引佐郡	長上郡	龜玉郡	豐田郡	磐山	濱松	敷知郡	濱名郡	引佐郡
靜岡	靜岡市	有渡郡	益津郡	志太郡	安倍郡	富士郡	靜岡	靜岡市	有渡郡	益津郡
掛川	佐野郡	城東郡	周智郡	榛原郡			掛川	佐野郡	城東郡	周智郡
三島	君澤郡	田方郡	那賀郡	加茂郡	駿東郡		三島	君澤郡	田方郡	那賀郡
金澤	金澤市	河北郡	羽咋郡				金澤	金澤市	河北郡	羽咋郡
小松	能美郡	江沼郡	石川郡				小松	能美郡	江沼郡	石川郡

備考	六 族 管												
	福井		岐阜			富山			七尾				
一朱字ヲ以テ書スル監視區ノ位置ハ新置ニ係ルモノナリ 一監視區位置ノ下ニ黒點ヲ附スルモノハ從來ノ位置ト變更シタルモノナリ	大垣	武生	福井	御嵩	岐山	高岡	富山	富山	富山	富山	富山	富山	七尾
	安入郡 海西郡 本巢郡 不破郡 大野郡 山縣郡	南條郡 今立郡 丹生郡 敦賀郡	福井市 足羽郡 吉田郡 坂井郡 大野郡	西春日井郡 東春日井郡 丹羽郡 葉栗郡 中島郡	可兒郡 加茂郡 土岐郡 惠那郡	岐阜市 厚見郡 各務郡 方縣郡 羽栗郡 中島郡 武儀郡	高岡市 射永郡 礪波郡 婦負郡	富山市 上新川郡 下新川郡	富山市 上新川郡 下新川郡	富山市 上新川郡 下新川郡	富山市 上新川郡 下新川郡	富山市 上新川郡 下新川郡	鹿嶋郡 鳳至郡 珠洲郡

○三重縣告示第四十九號 二十三年三月三十一日

正副議長常置委員撰任及備充儲蓄金地方稅へ借入方法二十三年土木費追加豫算寄附金支辨ノ分  
同收入金 議案并土木費ニ對スル金員寄附ノ件議定及土木費支辨法追加諮問ノ爲四月一日ヨリ臨時縣會ヲ開設ス

○三重縣告示第五十號 二十三年四月一日

三重縣公園(津市所在)ノ議本年四月一日ヨリ津市へ引續キ津市公園ト改稱ス

○三重縣告示第五十一號 二十三年四月四日

縣會正副議長并常置委員同豫備員左記ノ通今般臨時縣會ニ於テ常撰セリ  
但常置委員天春文衛辭職ニ付豫備員乾覺郎ヲ以テ其缺ヲ補フ

議長 北川 短一  
副議長 木村 誓太郎  
常置委員 角 利助

同	福地次郎
同	深山登助
同	小河義郎
同	天春文衛
常置委員豫備員	乾 覺郎
同	海野謙次郎
同	木村周太郎

○三重縣告示第五十二號 二十三年四月四日

千葉縣江戶川利根川兩川間東葛飾郡田中村大字船戸ヨリ新川村大字深井新田ニ至ル運河開鑿工事竣功ニ付本年三月二十日ヨリ通船差許シ向六十年間通航ノ船隻ヨリ左記ノ如ク通船料徴收ノ義ヲ許シ航通規則別紙ノ通定メタル旨同縣ヨリ通知越セリ

運河通船料

一 船 梁間三間未滿和船	一艘
此通船料金五拾錢	
一 全 梁間三間以上四間未滿和船	一艘
此通船料金七拾五錢	
一 全 梁間四間以上六間未滿和船	一艘
此通船料金壹圓	
一 全 梁間六間以上八間未滿和船	一艘
此通船料金壹圓五拾錢	
一 全 梁間八間以上和船	一艘
此通船料金貳圓	
一 十噸積未滿漁船	一艘
此通船料金貳圓	

- 一 十噸積以上廿噸積未滿瀛船 一艘  
此通船料金三圓
- 一 廿噸積以上四十噸積未滿瀛船 一艘  
此通船料金五圓
- 一 四拾噸積以上瀛船 一艘  
此通船料金七圓
- 一 筏 一但  
此通船料金五拾錢  
但一組毎ニ金五拾錢ヲ増ス  
但官船ハ通船料ヲ收入セス

(別紙)

利根運河航通規則

- 第一條 利根運河ヲ航通スル船舶若クハ筏ハ左ノ制限ニ從フヘシ
  - 一 諸船舶吃水四尺以下
  - 二 川汽船長九十尺幅廿七尺以下
  - 三 帆船及ヒ各種ノ船舶長八十尺幅廿尺以下
  - 四 筏長九十尺幅十二尺以下
- 第二條 前條ノ船筏ヨリ徵收スヘキ通航料ハ會社ニ於テ河口見易キ場所ニ傍示スヘシ
- 第三條 運河ヲ通過セントスル船舶筏ハ運河々口到着ノ順次ニ從各其右側ヲ航行スヘシ  
但他ニ障害ヲ起サスシテ互ニ通過シ得ヘキ運河直流ノ場所又ハ通過シ得ヘキ場合ニ於テハ同一ノ方向ニ進航スル船舶及ヒ筏ヲ航超スル事ヲ得
- 貨物搭載又ハ陸揚其他ノ事故ニ依リ順番ニ進航スル能ハサル場合ニ於テハ其事故ノ解決タルトキハ順次ノ列ニ加ハルヘシ
- 第四條 官船官用船及ヒ郵便物ヲ搭載スル船舶ニ對シテハ他ノ舟筏之レヲ避讓シテ先航

セシムヘシ

第五條 運河ヲ航通スル船舶筏ハ一秒時間ニ五尺以上ノ速力ヲ以テ進航スヘカラス

第六條 運河ヲ航通スルモノハ日没ヨリ日出マテ無色眩燈ヲ左方ニ付テ停泊スルトキハ之ヲ竿頭ニ掲クヘシ

第七條 互ニ反對ノ方向ニ進航シテ運河内或ハ部分殊ニ狹部近傍ニ於テ遭遇スルトキハ上航ノモノハ下航ノモノニ讓ルヘシ若シ運河内水流ナキ場合ニ於テハ江戸川ニ向フテ進航スルモノ先通過スヘシ

同一ノ方向ニ進航スル場合ト雖モ併列シテ駛走シ又ハ競争スヘカラス

第八條 舟筏ニシテ運河内ニ停泊ヲ要スルトキハ豫メ會社ニ於テ定メタル場合ニ繫留スヘシ

第九條 運河ヲ航通スル船舶筏ハ兩岸ノ堤防若クハ河底其他ノ築造物ニ對シテ損害ヲ與ヘサル様相當ノ注意アルヘシ特ニ左ニ掲クル二項ノ注意ヲ要ス

一 水堰水制及ヒ堤防ヘ掉スヘカラス

二 一時進航ヲ止メタルトキ若クハ停泊スルトキハ運河會社ノ設置シタル沿岸ノ杭木ニ繫留シ河岸河底又ハ其近傍ニ投錨スヘカラス

第十條 船舶及ヒ筏ヲ併流又ハ横流若クハ斜流シ苟モ他ノ船舶筏ヲ妨害スル所爲アルヘカラス

第十一條 船舶筏ヲ運行スルトキハ衝突セサル様互ニ相當ノ距離ヲ隔ツヘシ

第十二條 運河南岸ノ舟曳道ハ江戸川ヨリ利根川ニ向フテ航通スル船舶筏之レヲ使用スヘシ利根川ヨリ江戸川ニ向フテ航通スルモノハ北岸ノ舟曳道ヲ使用スヘシ又水勢強流ナルトキハ狹部ニ限リ兩岸ノ舟曳道ヲ使用スルコトヲ得舟曳法ノ如何ニ關ハラヌ更子ハ舟曳道ノ以外ヲ通行スヘカラス

第十三條 乗客及荷物ノ上下ヲナスハ特ニ指定シタル場所ニ限ル

第十四條 左ノ場合ニ於テハ運河會社ハ直チニ水堰ヲ閉塞シ船舶筏ノ航通ヲ止メ事故止



ミタルトキハ之ヲ開放スヘシ

一 水堰若クハ運河内流通ノ速力強大トナリ航通又ハ運河岸ノ安全ヲ保ツニ不適當トナリタル場合

二 干水ニ際シ利根江戸兩川内航通上便宜ノ爲メ若クハ洪水ニ際シ兩川堤防決壊ノ危険其他之ヨリ起ルヘキ水害ヲ防クニ必要ナル場合

三 緊急必要ノ時又ハ堤防決壊ノ危険其他水害ヲ防クニ必要ナリト認メ官廳ノ命令アル場合

第十五條 河岸又ハ河底ノ修繕工事中若クハ洪水干水其他ノ事故ニ依リ航路ヲ示シ又ハ進航ヲ遅緩ナラシムヘキ注意ヲ要スル箇所アルトキハ運河會社ハ晝間ハ赤色ノ信號旗夜間ハ同色ノ信號燈ヲ其局部ニ掲ケテ之レヲ通航者ニ示スヘシ

第十六條 総テ運河ノ航通ヲ停メタルトキハ運河兩所ノ河口其他必要ノ箇所ニ晝間ハ綠色ノ信號旗夜間ハ同色ノ信號燈ヲ掲クヘシ

第十七條 諸船舶筏ハ江戸利根兩川運河河口近傍ニ停泊シ又ハ繋留シテ運河出入ノ船舶筏若クハ水流ヲ妨害スヘカラス

第十八條 運河兩岸及ヒ舟曳路ニ土石竹木其他ノ物品ヲ堆積スヘカラス

第十九條 運河内又ハ河岸近傍ニ汚穢物ハ勿論塵芥タリトモ放棄スヘカラス

第二十條 第五條第六條第十三條ヲ犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處ス又ハ二拾錢以上一圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス第十五條ヲ犯シタルモノハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

○三重縣告示第五十三號 二十三年四月五日

本月一日ヨリ開設セシ臨時縣會ニ於テ尙左ノ事項ヲ議定セシム

一 明治二十三年度備荒儲蓄金取扱規則更正

一 同年度同収支豫算更正

一 同年度地方稅支出 警察廳舎建築修繕費 收入(寄附金)追加豫算 及土木費追加豫算

一金員寄附ノ件

○三重縣告示第五十四號 二十三年四月八日

本年(二月)告示第二十六號奄蕪河曲郡徵兵參事員補缺撰舉會ニ於テ左記ノ者當撰セリ

河曲郡箕田村

矢田彌四郎

○三重縣告示第五十五號 二十三年四月八日

陸軍教導團生徒志願ノ者ハ本年(三月)陸軍省令第七號陸軍教導團生徒召募規則ニ據リ本月二十日迄ニ書面ヲ郡市役所ニ差出シ郡市長ハ同月二十四日迄ニ之ヲ本廳ニ進達スヘシ

○三重縣告示第五十六號 二十三年四月八日

一鳥獸獵免狀 職獵第九〇四三號 一枚

明治二十二年十一月十三日飯高郡大河内村大字矢津六十二番屋敷平民長島龜吉ヘ下付右免狀本年三月二十五日一志郡宇氣鄉村大字袖ノ原山中ニ於テ遺失ノ旨届出候條所在見聞ノ者ハ最寄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ其届出ヲ受ケタルノ署ハ直チニ警察本部保安

課へ通報スヘシ

○三重縣告示第五十七號 二十三年四月八日

一鳥獸獵免狀 職獵第九六八〇號 一枚

明治二十二年十二月二十一日一志郡豐地村大字堀ノ内ニ番屋敷平民多賀梅四郎ヘ下付右免狀本年三月二十九日盜難ニ罹リタル旨届出候條所在見聞ノ者ハ最寄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ其届出ヲ受ケタル署ハ直チニ警察本部保安課へ通報スヘシ

○三重縣告示第五十八號 二十三年四月七日

本月一日ヨリ開設セシ臨時縣會本日閉會ス

○三重縣告示第五十九號 二十三年四月十一日

過般大演習ノ際水雷發射艇一個「煩銅製ニシテ長九尺程ノ細長キ籠ノ如キ形狀ヲナセン者」伊良古崎神島ノ間ニ於テ取落ノ旨演習艦隊司令長官ヨリ照會有之候ニ付若シ拾得タル者ハ速ニ當廳ヘ届出ツヘシ

○三重縣告示第六十號 二十三年四月十一日  
今般縣會常置委員改撰ニ付更ニ縣徵兵參事員ヲ互撰セシメ左ノ通常撰セリ

福地 次郎 深山 聳峨 小河 義郎 角 利助

○三重縣告示第六十一號 二十三年四月十八日 瀨華學書共進會

大坂府下瀨華學書會ニ於テ來ル九月一日ヨリ二十五日間繪畫共進會開設ニ付有志者ハ精々出品スヘシ

但同會規則ハ左記ノ通り

繪畫共進會規則

一 明治二十三年九月一日ヨリ日數廿五日間大坂市東區内本町橋詰町府立大坂博物館内ニ繪畫共進會ヲ開設ス

一 出品ハ洋法畫ヲ除クノ外流派ノ如何ヲ問ハス美術ノ旨ニ適シ圖樣ノ新奇ナルヲ要ス然レトモ猥雜戲狂ノ圖書并ニ蒔繪染繪燒繪ノ類ハ之ヲ許サス

一 出品ハ絹地紙本ヲ問ハス粗密ヲ論セス一名ニ葉トシ堅曲四尺五寸横一尺八寸ニ限リ梓ニ張リ透明セサル様裏張ヲナシ差出スヘシ

但送附返還費用トモ總テ出品人ノ自辨タルヘシ

一 遠隔地ノ出品ニシテ運搬上不便ナルモノハ本會ニ於テ梓張裝飾ヲ引受テ取扱フニ付依頼者ハ出品目錄ニ其旨記載シ右梓裝飾費用トシテ繪畫一葉ニ付金貳拾五錢宛出品ト同時ニ送附スヘシ

但途中破損染汚ノ患ナキヤウ嚴封シテ送附スルヲ要ス

一 出品目錄ハ明治二十三年七月十五日迄ニ本會事務所へ差出シ出品書ハ同年八月十五日限リ着ノ見込ヲ以テ送附スヘシ

一 出品目錄書式

出品目錄

本籍又ハ寄留府縣郡區町村名番地

第一號	何ノ圖	絹又ハ紙	堅四尺五寸 横壹尺八寸	代價何程
	(歴史上ノ繪畫其他異種ノ鳥獸魚蟲草木又ハ各地ノ真景ニハ可成詳細ナル解説記載ヲ要ス)			
第二號	全	上	全	上
	(全上)			
但粹張裝飾御依頼致候				
右出品仕度候也				
年月日				
浪華學會繪畫共進會事務所御中				
氏名印				
一出品畫ハ成ル可ク賣品タル可シ				
但賣非賣ヲ論セス本會手数料ハ一切之ヲ徴セスト雖モ賣却代金送付爲替料及郵税ハ				

引去ル可シ	
一繪畫陳列ハ現品送附受附ノ順序ヲ以テ之ヲ定メ陳列ス	
但隔地出品者數名相纏メ一時ニ送附スルモノハ其一二三ノ番號ヲ付シ發送スヘシ	
一出品畫賣買約定濟ノ分タリトモ閉會ノ後ニ非サレハ搬出ヲ許サス	
但賣買約定ノ節代價ノ壹割ヲ収メ閉會ノ後殘金ト引換現品ヲ渡スヘシ	
一出品畫審査ノ上優等ノ者ニハ左ノ褒賞ヲ授與ス	
壹等銀印	貳等白銅印
三等銅印	四等ヨリ六等迄褒狀
一審査員ハ畫事修練ノ人及畫家中ヨリ撰舉ス	
一審査員評點ハ三十點以上壹百點ニ至ルモノヲ六等ニ分ツ	
一褒賞授與式ハ明治二十三年九月十五日ヲ以テ執行ス	
一出品ハ本會ニ於テ十分ニ保護ヲナスト雖避ク可ラサル災厄ニ由リ破損スルモノハ本會其責ニ任セス	